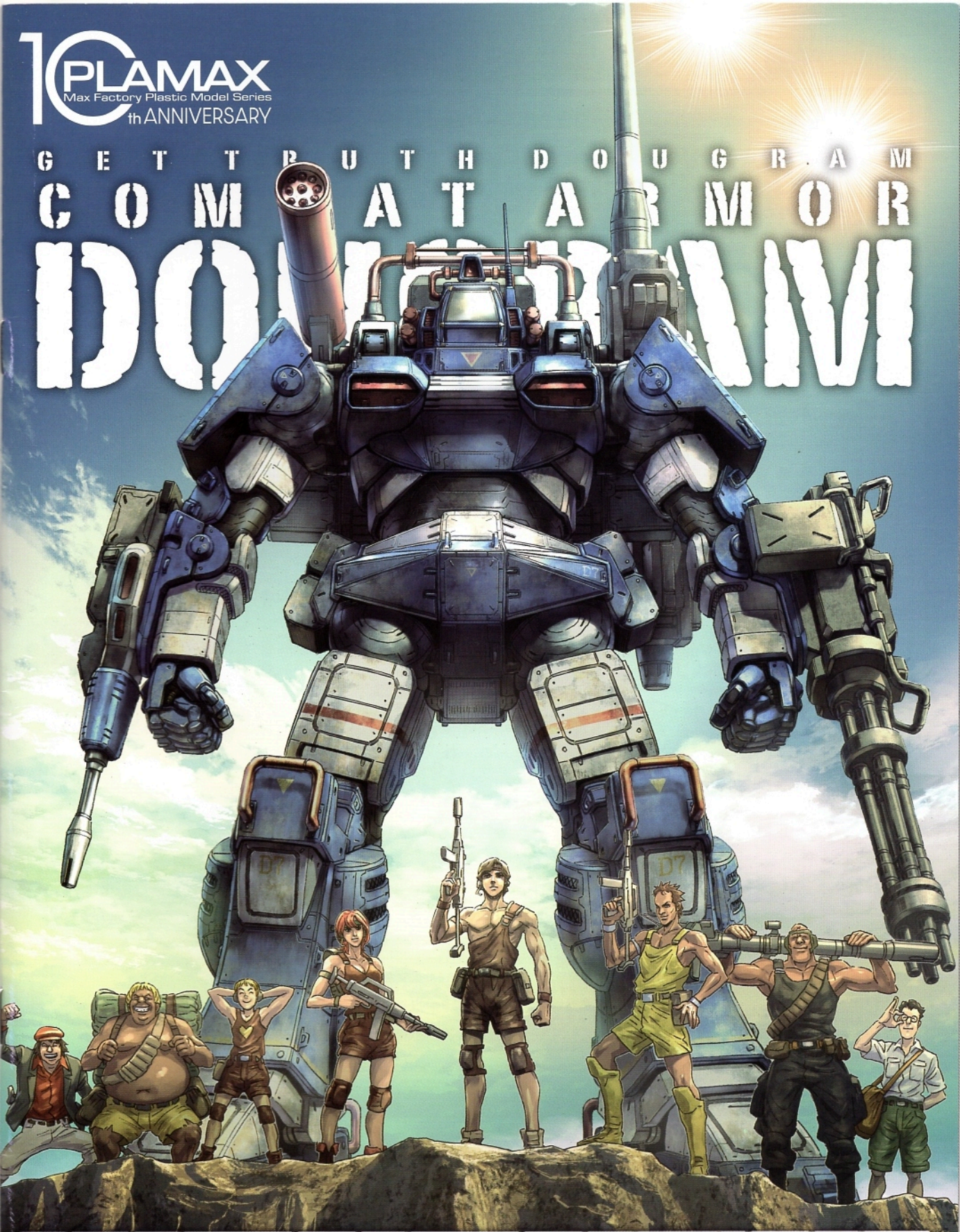


10 PLAMAX  
Max Factory Plastic Model Series  
10th ANNIVERSARY

GET TRUTH DOUGRAM  
COMBAT ARMOR

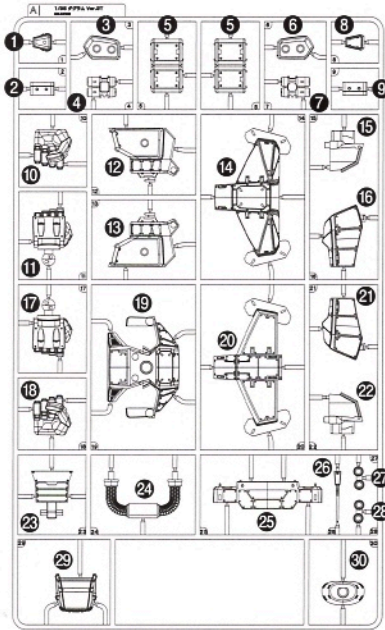
DOUGRAM



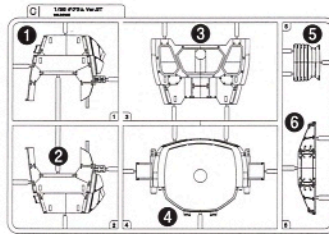
1/35 SCALE  
COMBAT ARMORS MAX  
GET TRUTH DOUGRAM  
DOUGRAM VER.GT  
DX COMPLETE EDITION

1/35 scale コンバットアーマー ダグラム Ver.GT DX コンプリート版  
©大田垣康男/小学館 ©SUNRISE  
※この商品には「1/35 scale コンバットアーマー ダグラムVer.GT DXコンプリート版」が1セット入っています。  
※イラスト・写真と商品とは多少異なります。ご了承ください。  
Max Factory  
SUNRISE

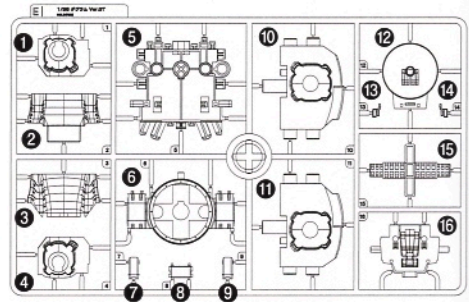
**Aパーツ × 1** スチロール樹脂:PS



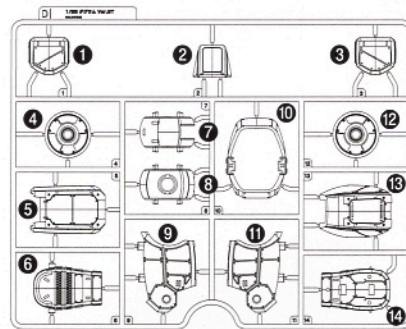
**Cパーツ × 1** スチロール樹脂:PS



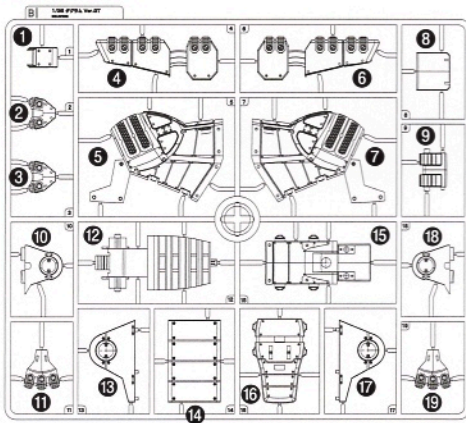
**Eパーツ × 1** スチロール樹脂:PS



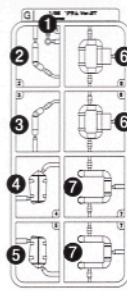
**Dパーツ × 2** スチロール樹脂:PS



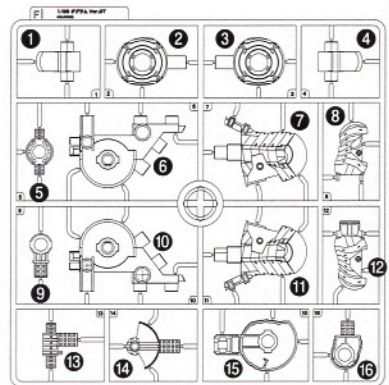
**Bパーツ × 2** スチロール樹脂:PS



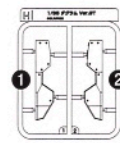
**Gパーツ × 1** スチロール樹脂:PS



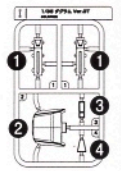
**Fパーツ × 2** スチロール樹脂:PS



**Hパーツ × 1** スチロール樹脂:PS



**Iパーツ × 1** スチロール樹脂:PS



**必ずお読みください**

- 商品の対象年齢は15才以上です。鋭い部品があるため、安全上15才未満には適しておりません。
- 窒息などの危険がありますので、小さな部品を口の中に入れてはいけません。
- パーツの誤飲などの危険があります。ご家庭に小さなお子様がいる場合、必ずお子様の手の届かないところに保管し、絶対にお子様には与えないようにしてください。
- 窒息などをされる恐れがありますのでパーツ梱包用のビニール袋で顔を覆ったり、頭から被ったりしないでください。
- 塗装を行う際は、必ず換気を良くしてください。

**部品注文カード**

1/35 ダグラム Ver. GT DXコンプリート版

[パーツ番号]

- |  |  |
|--|--|
| <input type="checkbox"/> Aパーツ—2,000円(税込) | <input type="checkbox"/> Kパーツ—500円(税込)     |
| <input type="checkbox"/> Bパーツ—1,500円(税込) | <input type="checkbox"/> Mパーツ—1,000円(税込)   |
| <input type="checkbox"/> Cパーツ—800円(税込)   | <input type="checkbox"/> Nパーツ—600円(税込)     |
| <input type="checkbox"/> Dパーツ—1,000円(税込) | <input type="checkbox"/> Oパーツ—1,200円(税込)   |
| <input type="checkbox"/> Eパーツ—1,200円(税込) | <input type="checkbox"/> Pパーツ—1,000円(税込)   |
| <input type="checkbox"/> Fパーツ—1,200円(税込) | <input type="checkbox"/> Qパーツ—1,000円(税込)   |
| <input type="checkbox"/> Gパーツ—600円(税込)   | <input type="checkbox"/> Rパーツ—1,000円(税込)   |
| <input type="checkbox"/> Hパーツ—400円(税込)   | <input type="checkbox"/> PC—600円(税込)       |
| <input type="checkbox"/> Iパーツ—400円(税込)   | <input type="checkbox"/> 水転写デカル—1,500円(税込) |
| <input type="checkbox"/> Jパーツ—800円(税込)   |  |

NAME

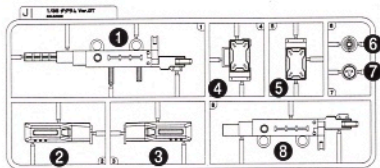
ADDRESS

PHONE No.

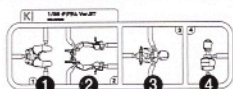
※ご請求パーツ数に準じた必要金額を下記にご記入ください。

小計 円 + 送料 **300円** = 合計 円

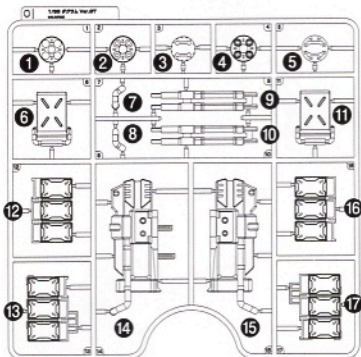
## Jパーツ × 1 スチロール樹脂:PS



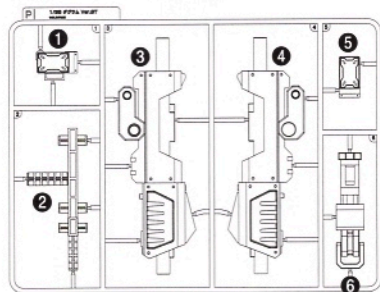
## Kパーツ × 1 スチロール樹脂:PS



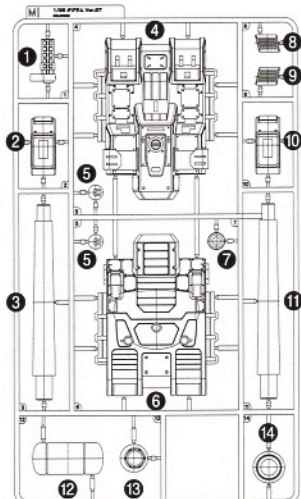
## Oパーツ × 1 スチロール樹脂:PS



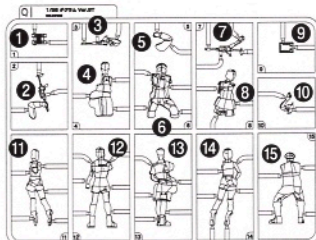
## Pパーツ × 1 スチロール樹脂:PS



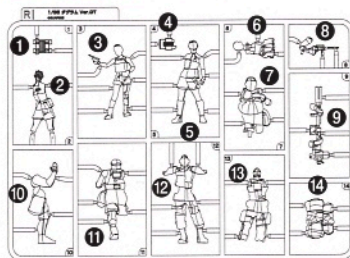
## Mパーツ × 1 スチロール樹脂:PS



## Qパーツ × 1 スチロール樹脂:PS

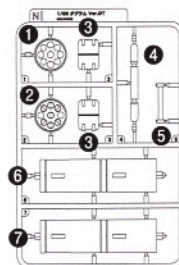


## Rパーツ × 1 スチロール樹脂:PS

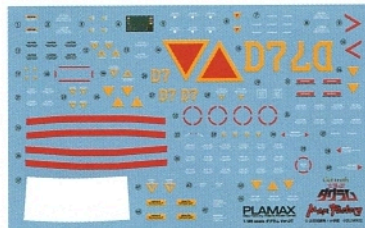


## Nパーツ × 1

スチロール樹脂:PS

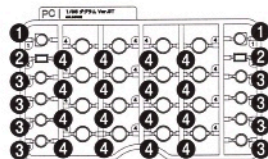


## 水転写デカール × 1



## PC<ポリキャップ> × 2

ポリエチレン:PE



### 組立て時の注意

- 組み立ての前にこの説明書をよく読んでください。
- 部品は番号を確かめてから、ニッパーなどで切り取ってください。切り取った時に出的クズなどは捨ててください。
- 部品加工に使用する刃物などの工具、また塗料や接着剤などについては、それぞれの取扱説明書を良く読んで、正しくお使いください。
- 部品には製法上やむをえず尖ったものがありますので、目や皮膚を刺さないよう注意して組み立ててください。

### パーツ販売について

#### パーツ請求に関するご案内



- 紛失や破損時のアフターサポートとして、パーツ販売(ランナー単位)を承っております。
- パーツ販売は在庫がなくなり次第終了いたします。ご注文前に必ずカスタマーサポートページより在庫確認を行ってください。お問い合わせまたは左記QRコード「在庫確認ページ」より在庫確認が可能です。
- ご注文方法は、郵送・WEB申し込みの2種類をご用意しております。左記QRコードをご確認の上、ご希望の方法にてお申込みください。
- お客様よりご提供いただきました個人情報はパーツ請求品の発送対応以外には使用いたしません。

### この製品に関するお問い合わせ

グッドスマイルカンパニー  
カスタマーサポート

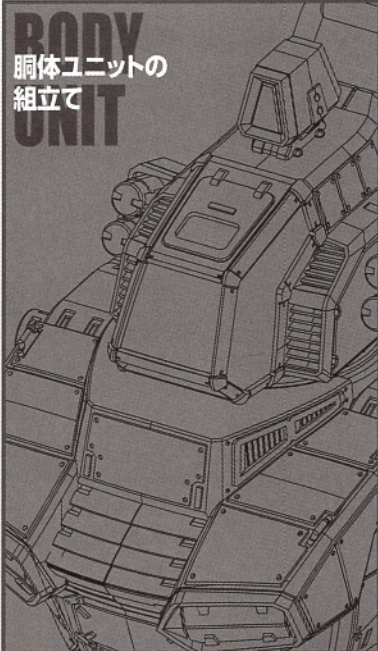


グッドスマイルカンパニーカスタマーサポート

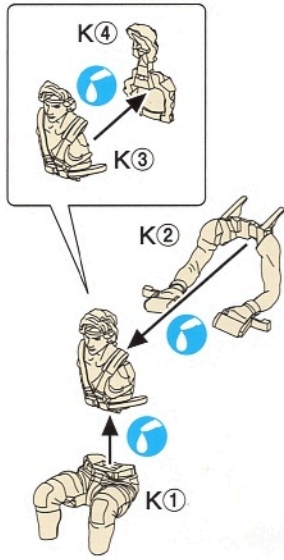
<https://support.goodsmile.com/>

- ※左記QRコードからもアクセスいただけます。
- ※商品不良に関するお問い合わせはwebサイトのお問い合わせフォームをご利用ください。

胴体ユニットの組立て



01 クリン・カシム(着座状態)



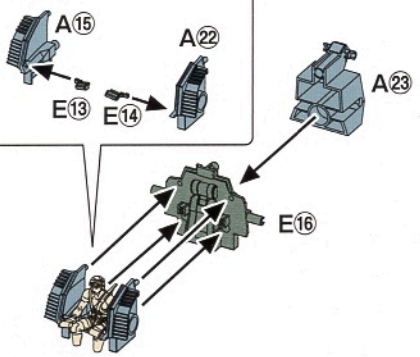
02

コックピット内はどちらかを選んで組立ててください。

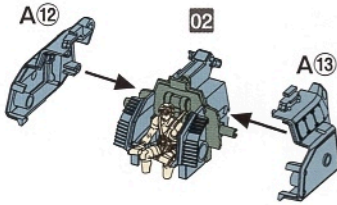
搭乗状態



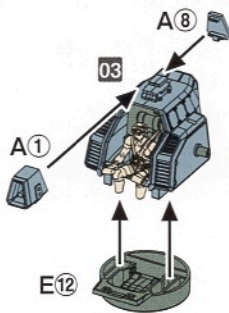
未搭乗状態



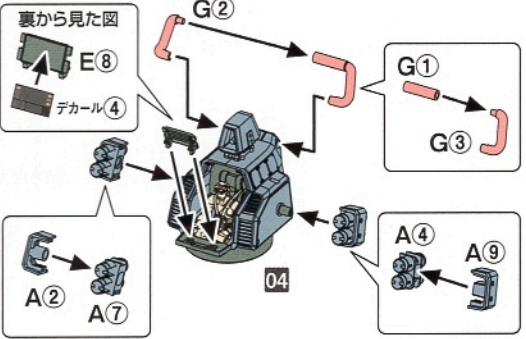
03



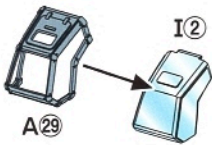
04



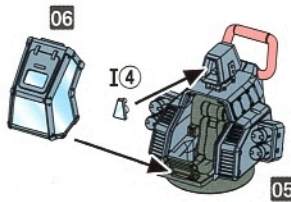
05



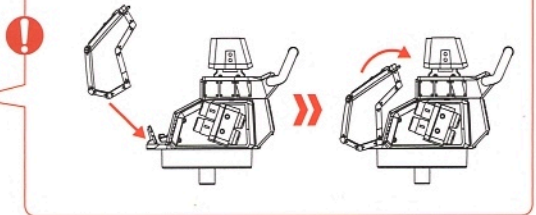
06



07

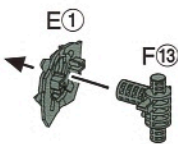


キャノピーの下側のツメを差し込んでから内側に倒します。

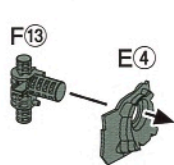


08

右肩

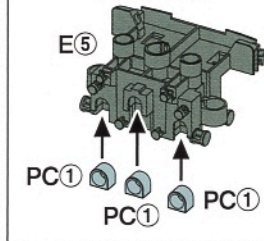


左肩



09

後ろから見た図



08 右肩

PC3

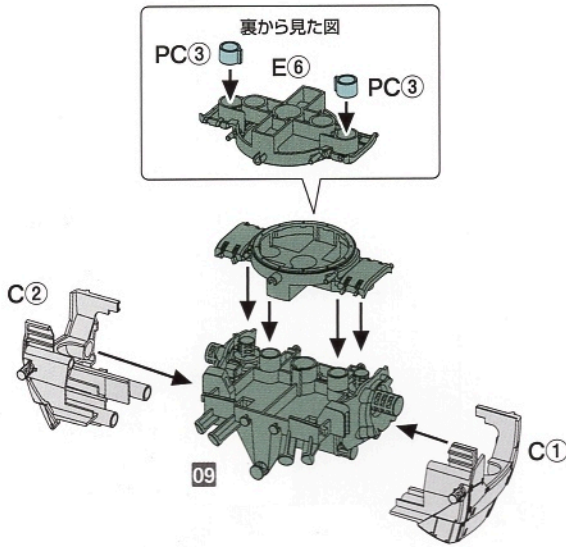
08 左肩

PC3

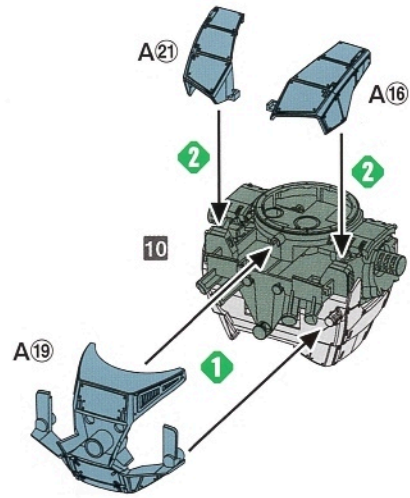
図中の記号説明

- ❗ 組立てに注意
- 👉 どちらかを選んで組立てる
- 🔵 パーツの接点を推奨
- 🟢 数字の順番に組立てる
- 🟡 数字の個数に組立てる

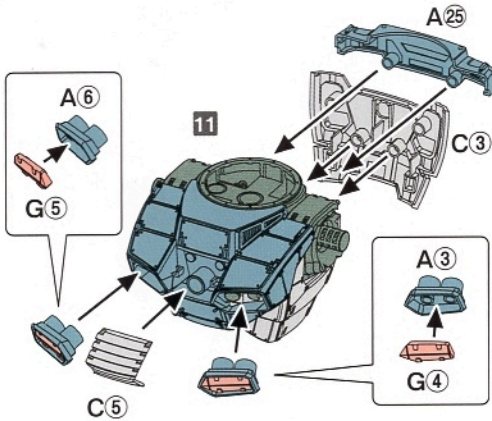
10



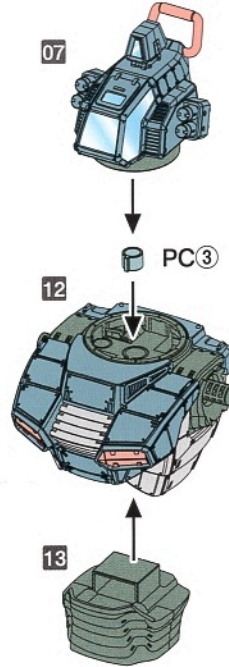
11



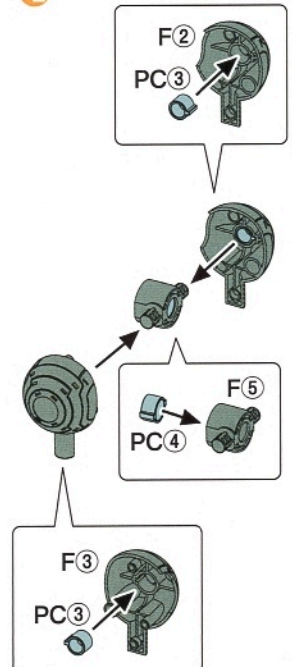
12



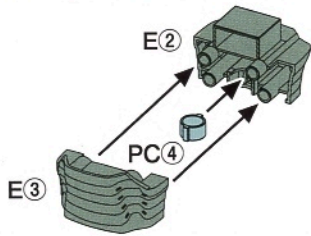
14



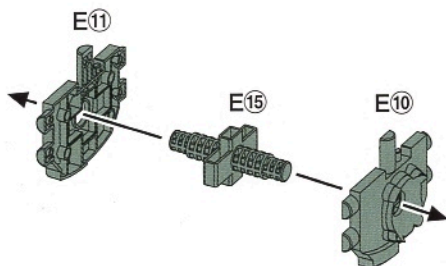
15



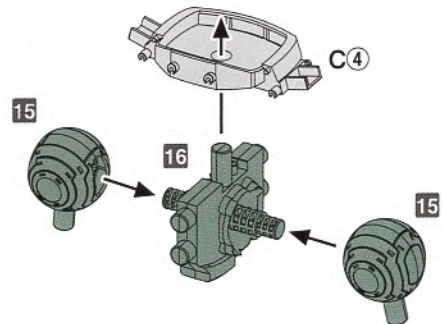
13



16



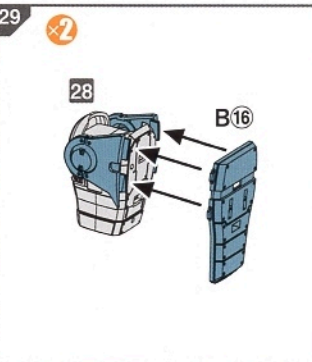
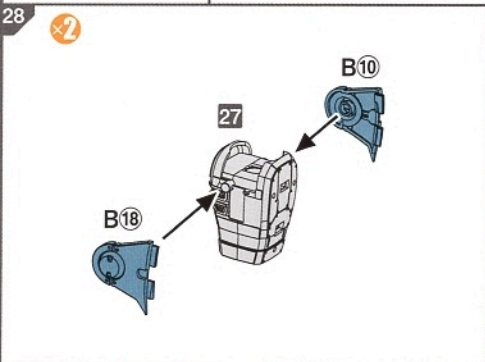
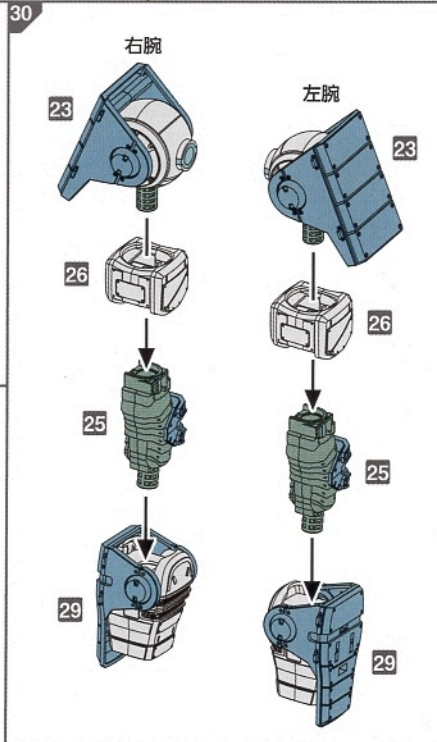
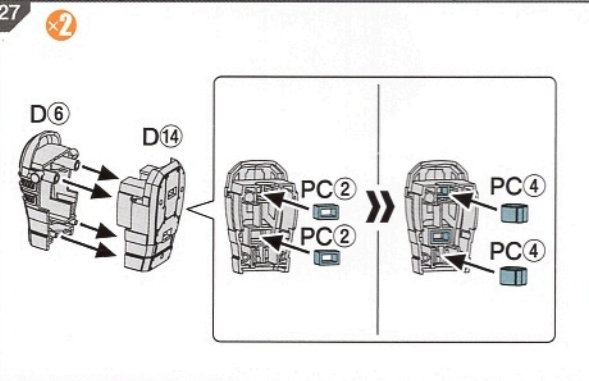
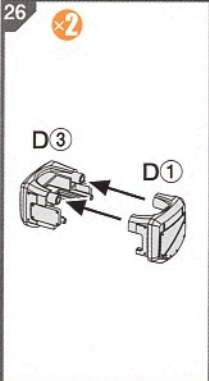
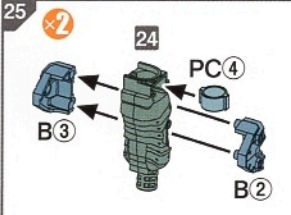
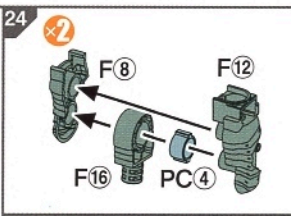
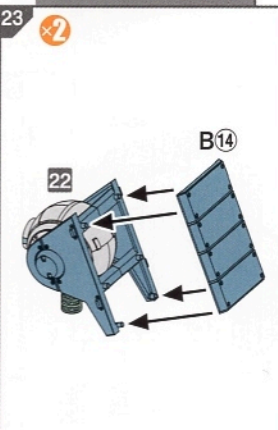
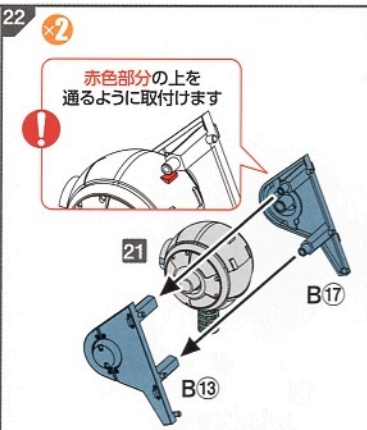
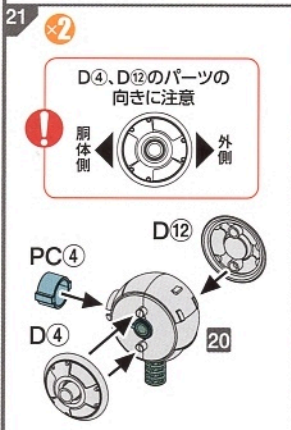
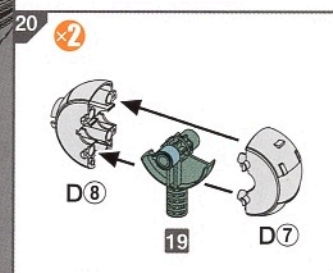
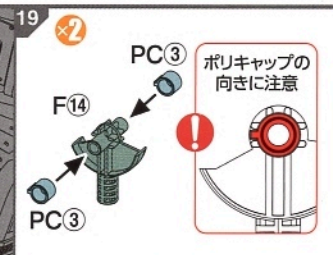
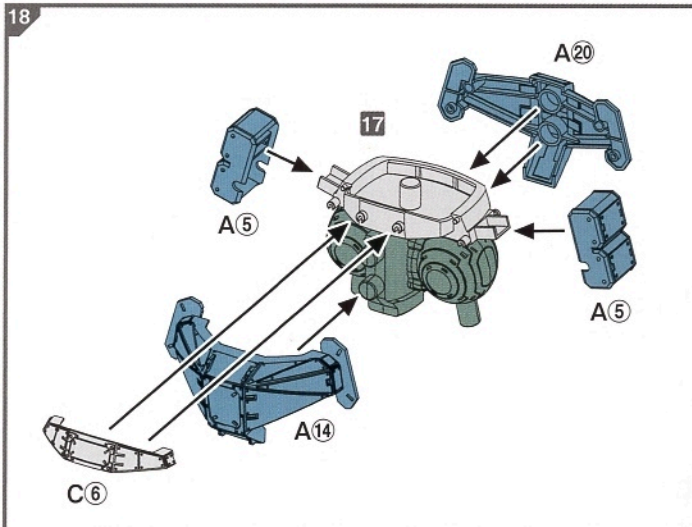
17

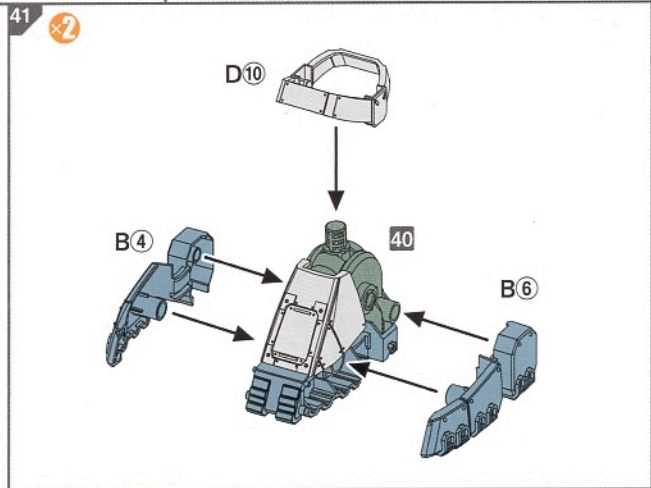
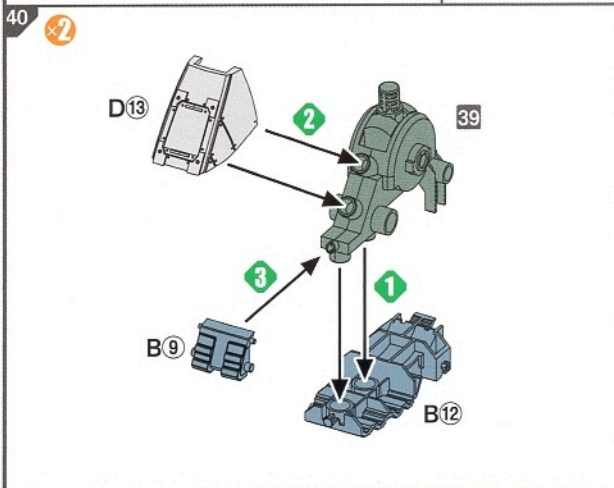
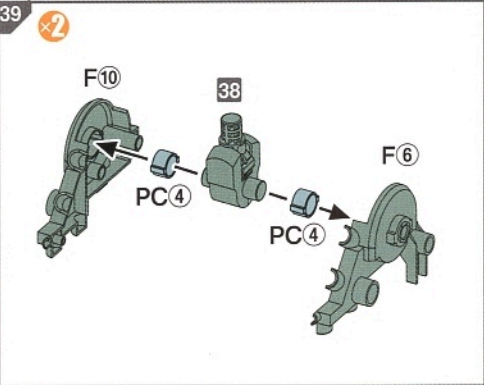
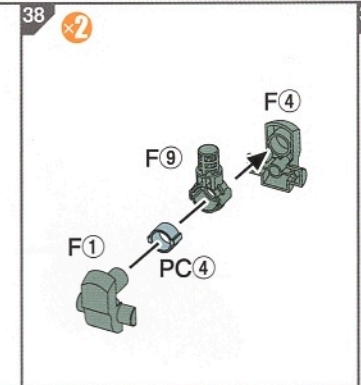
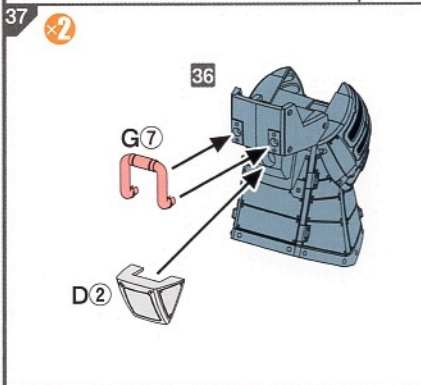
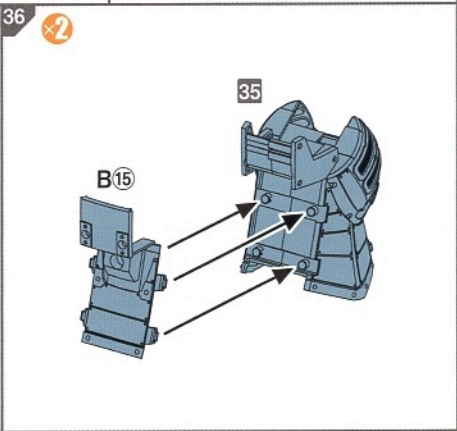
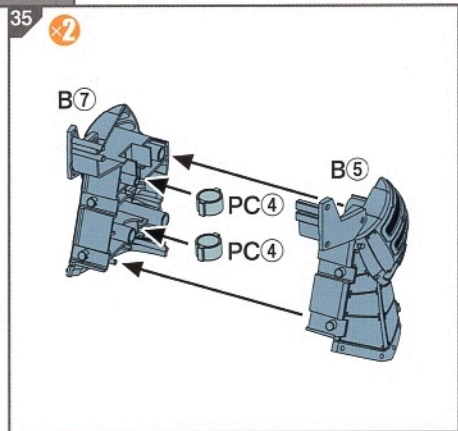
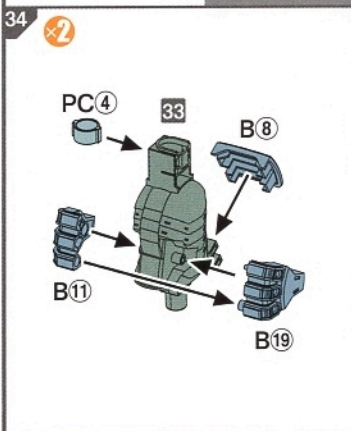
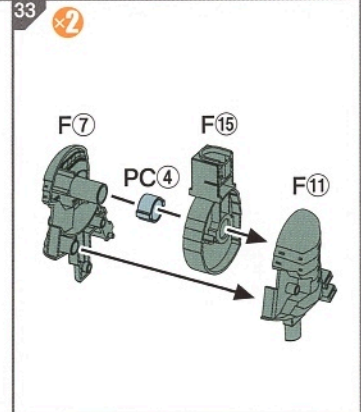
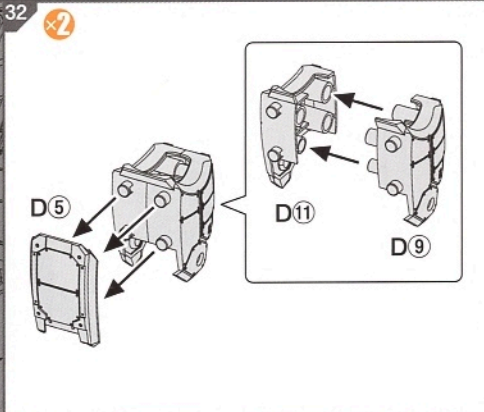
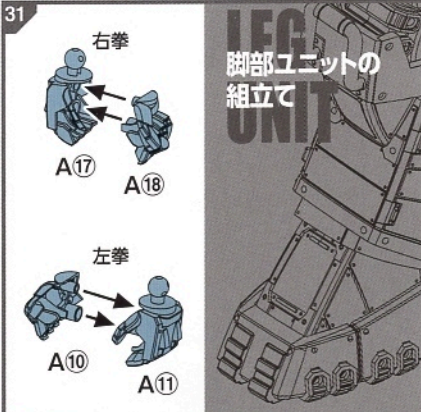


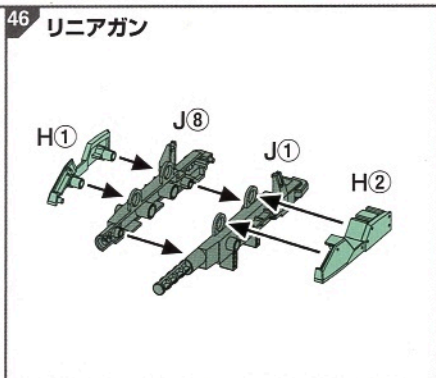
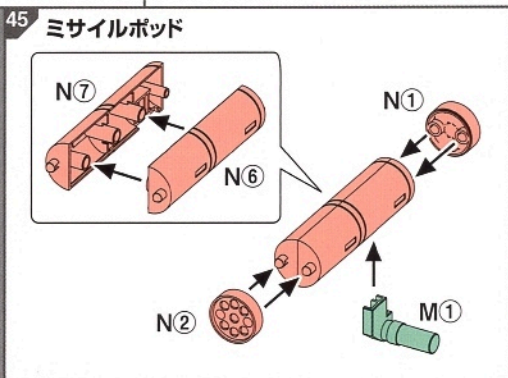
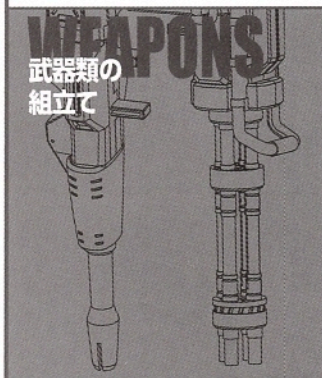
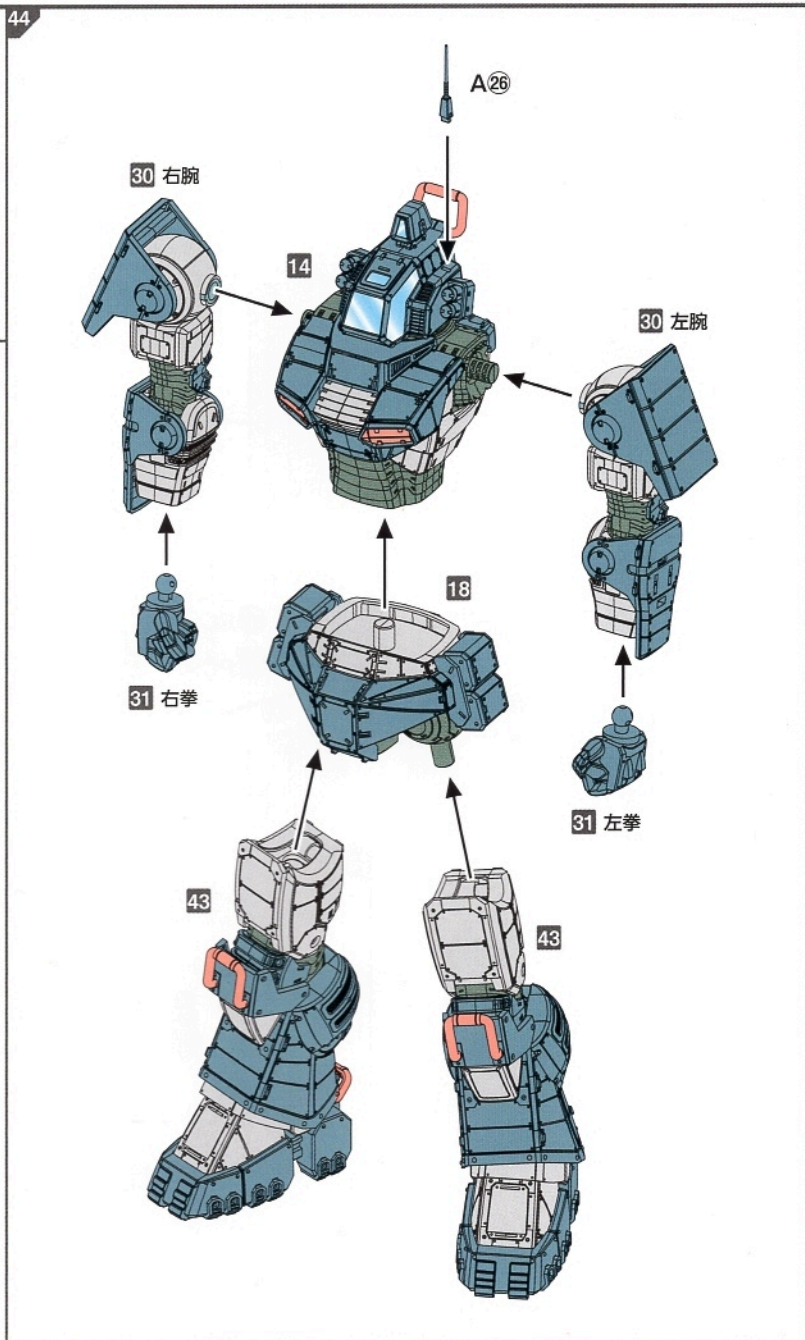
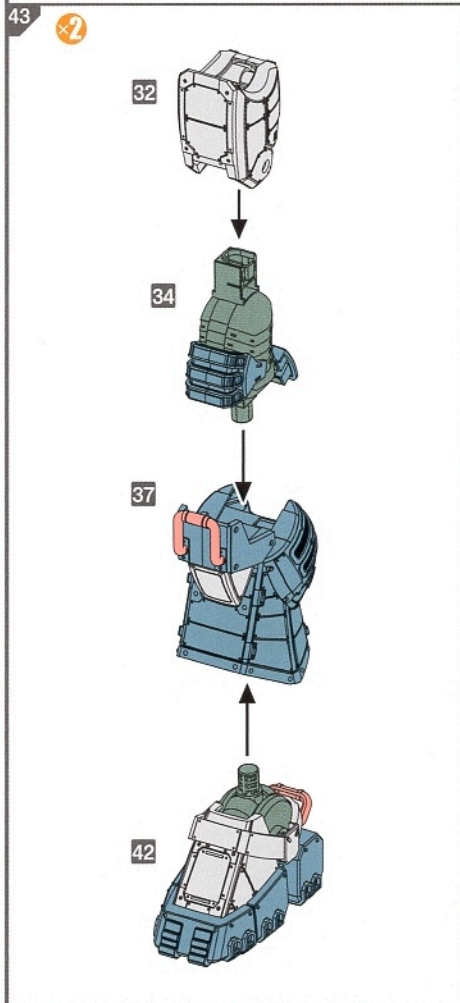
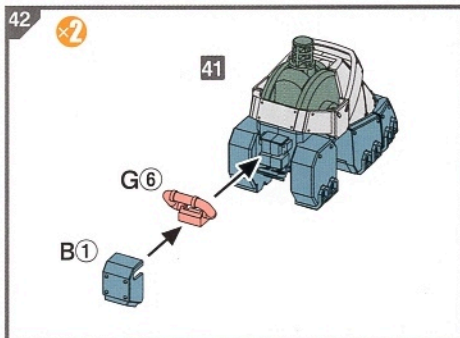
図中の記号説明

- 組立てに注意
- どちらか選んで組立てる
- パーツの接着を推奨
- 数字の順番に組立てる
- 数字の個数を組立てる

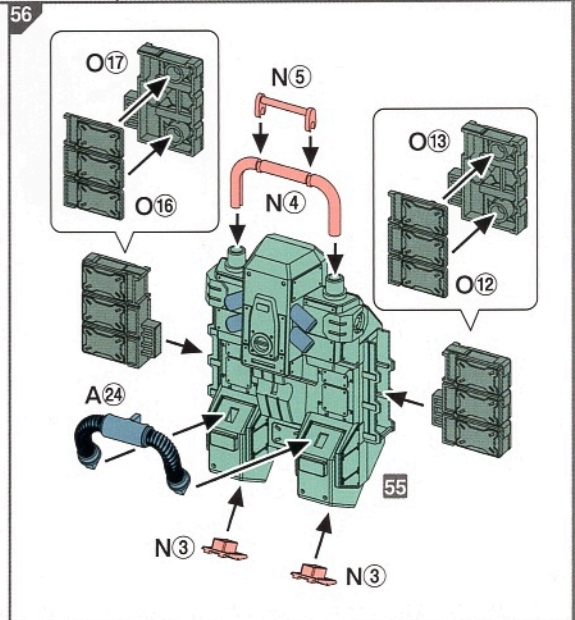
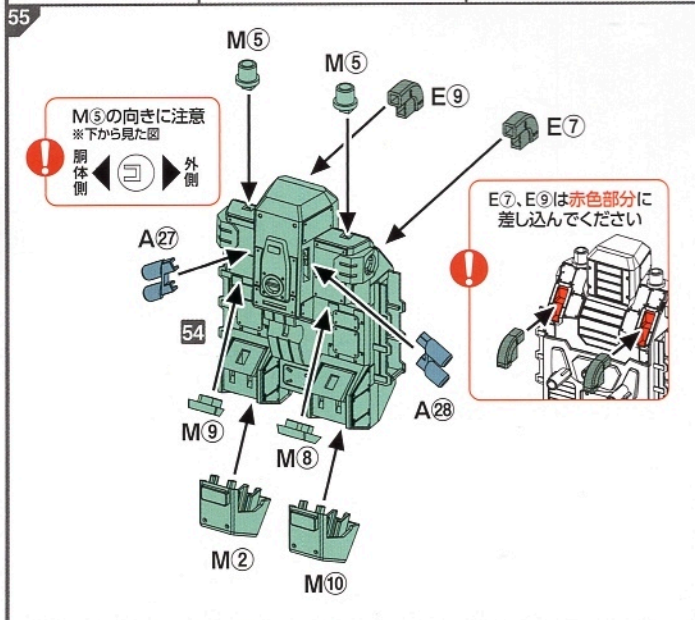
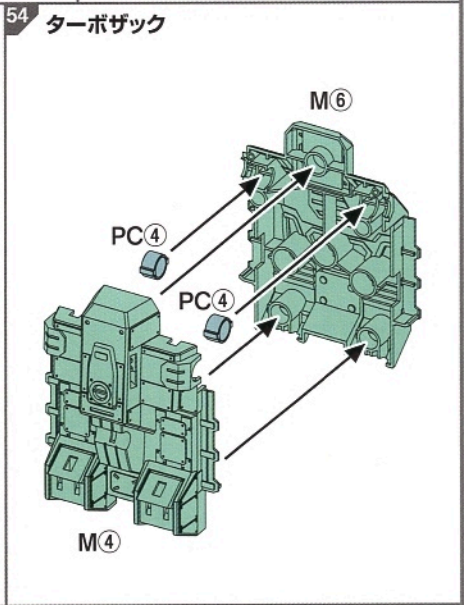
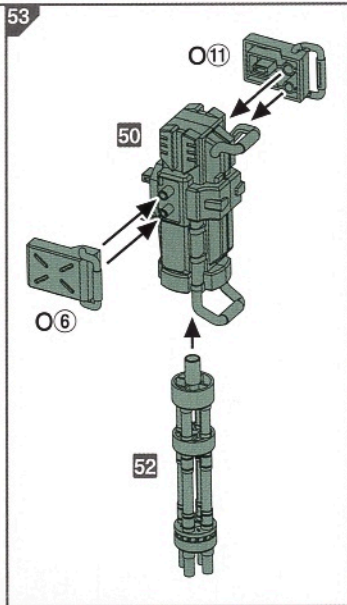
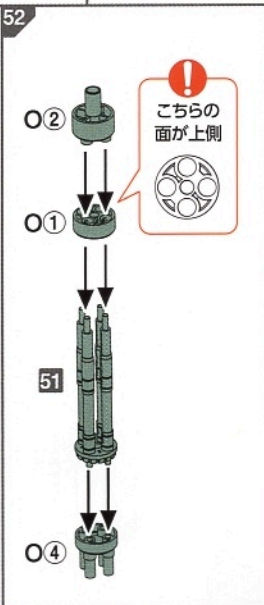
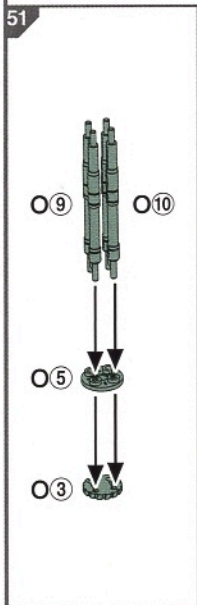
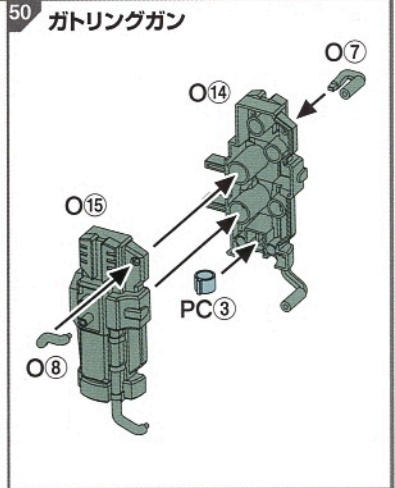
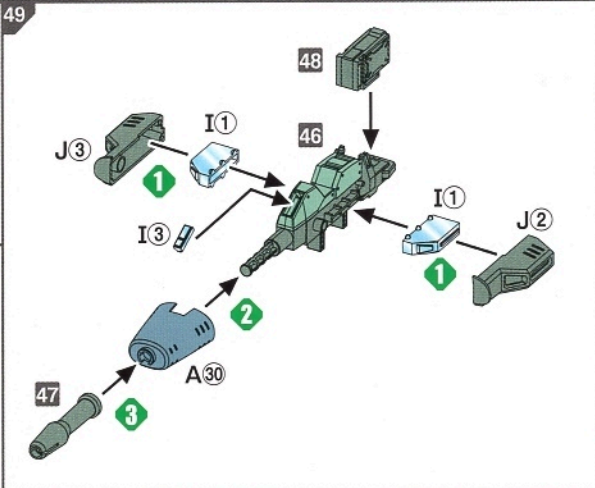
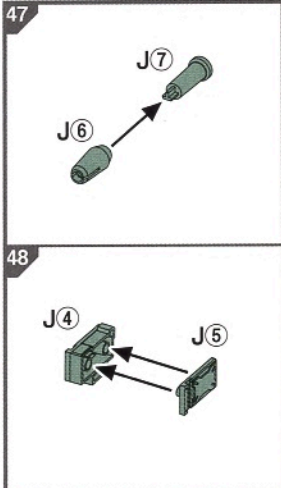
腕部ユニットの組立て



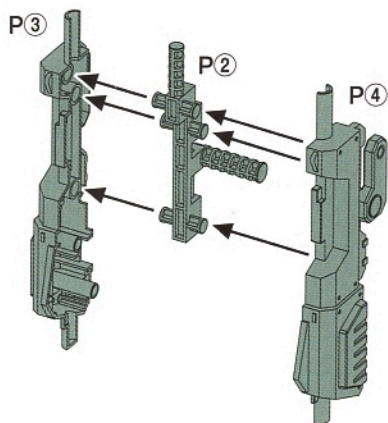




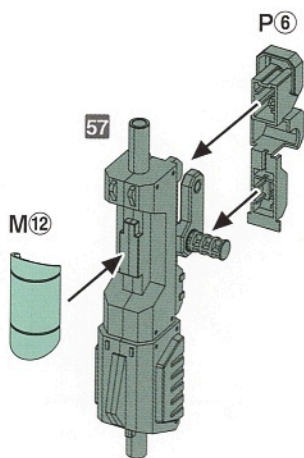




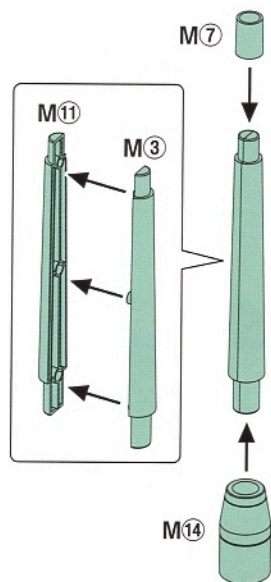
57 リニアカノン



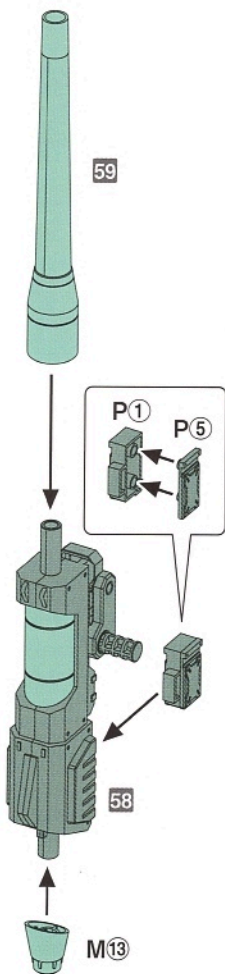
58



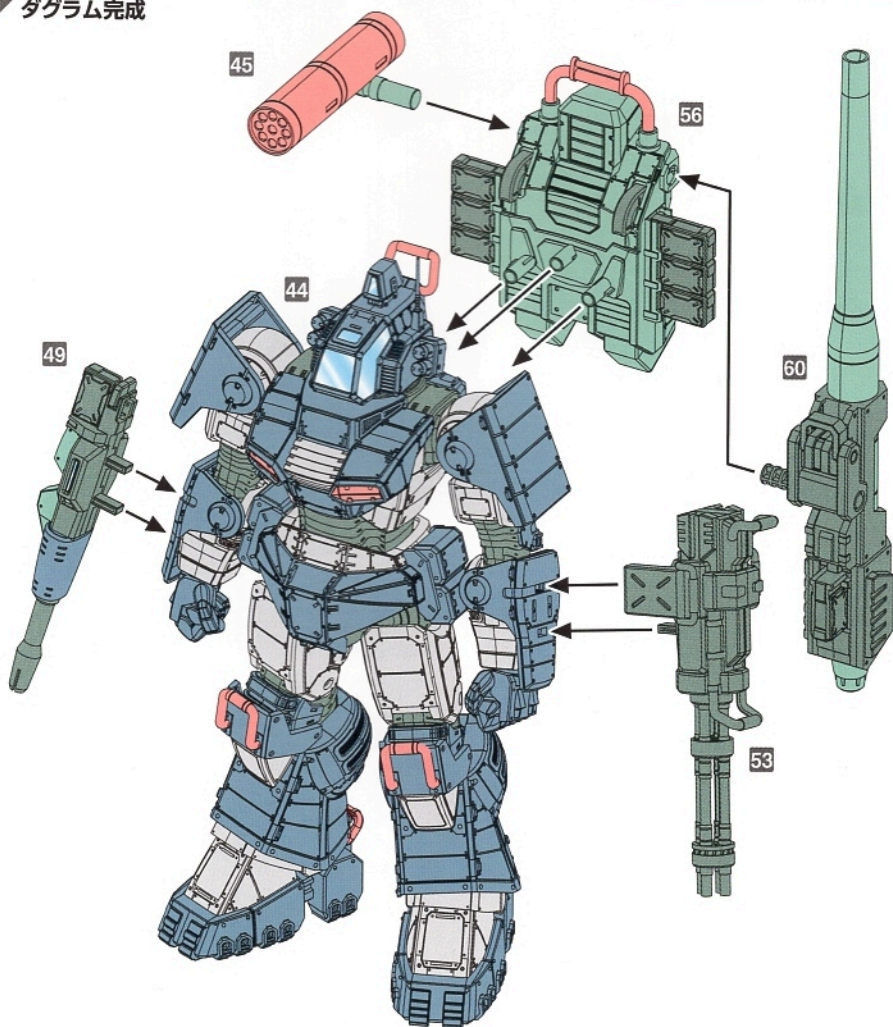
59



60



61 ダグラム完成



図中の記号説明



組立てに注意



どちらか選んで組立てる



パーツの接着を推奨



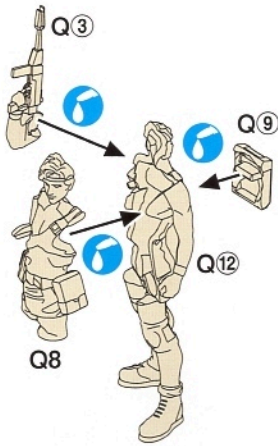
数字の順番に組立てる



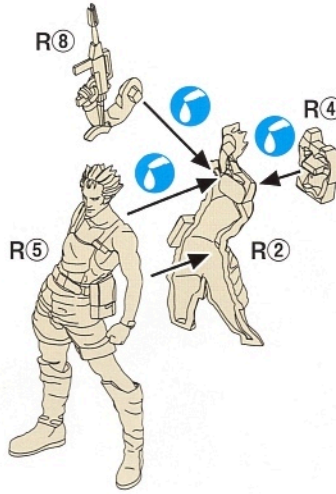
数字の個数を組立てる

FIGURE  
フィギュアの  
組立て

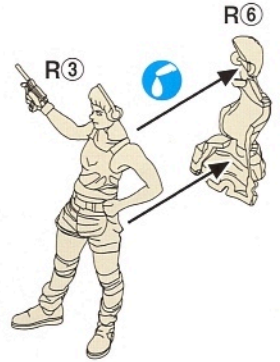
62 クリン・カシム



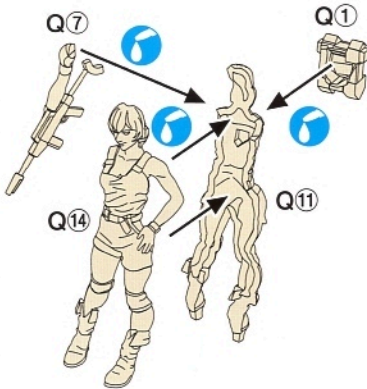
63 ロッキー・アンドル



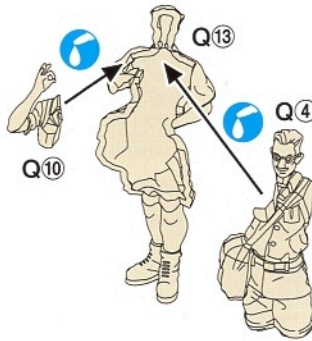
64 ビリー・ボール



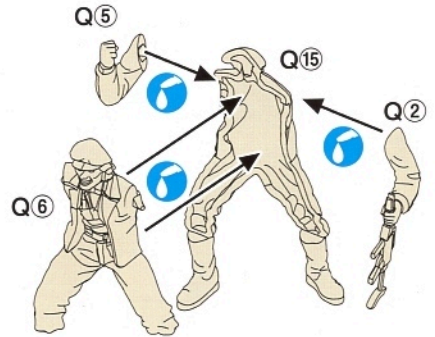
65 キャナリー・ドネット



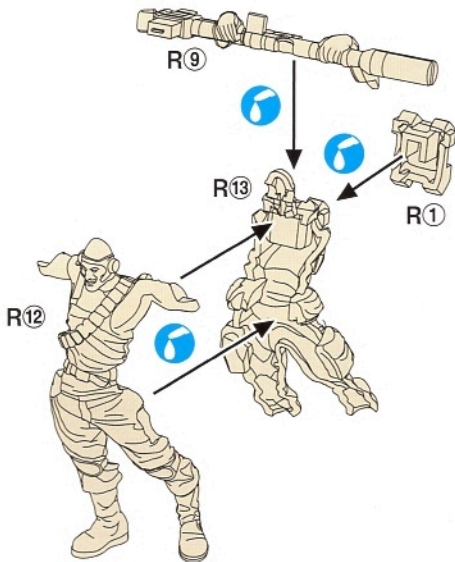
66 ハックル・G・トンプソン



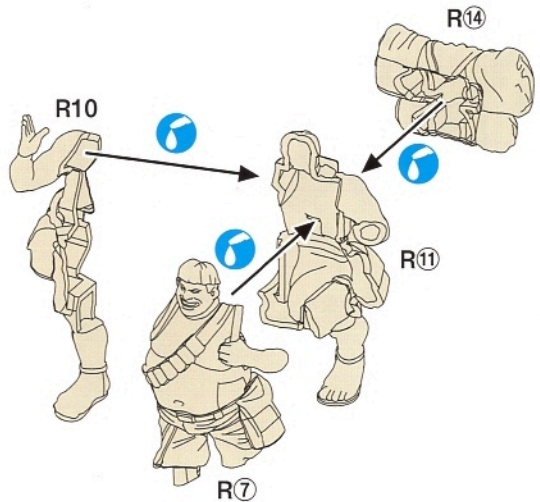
67 ジョルジュ・ジュールダン



68 チコ・ビエンテ



69 ナナシ



図中の記号説明



組立てに注意



どちらか選んで組立てる



パーツの接着を推奨



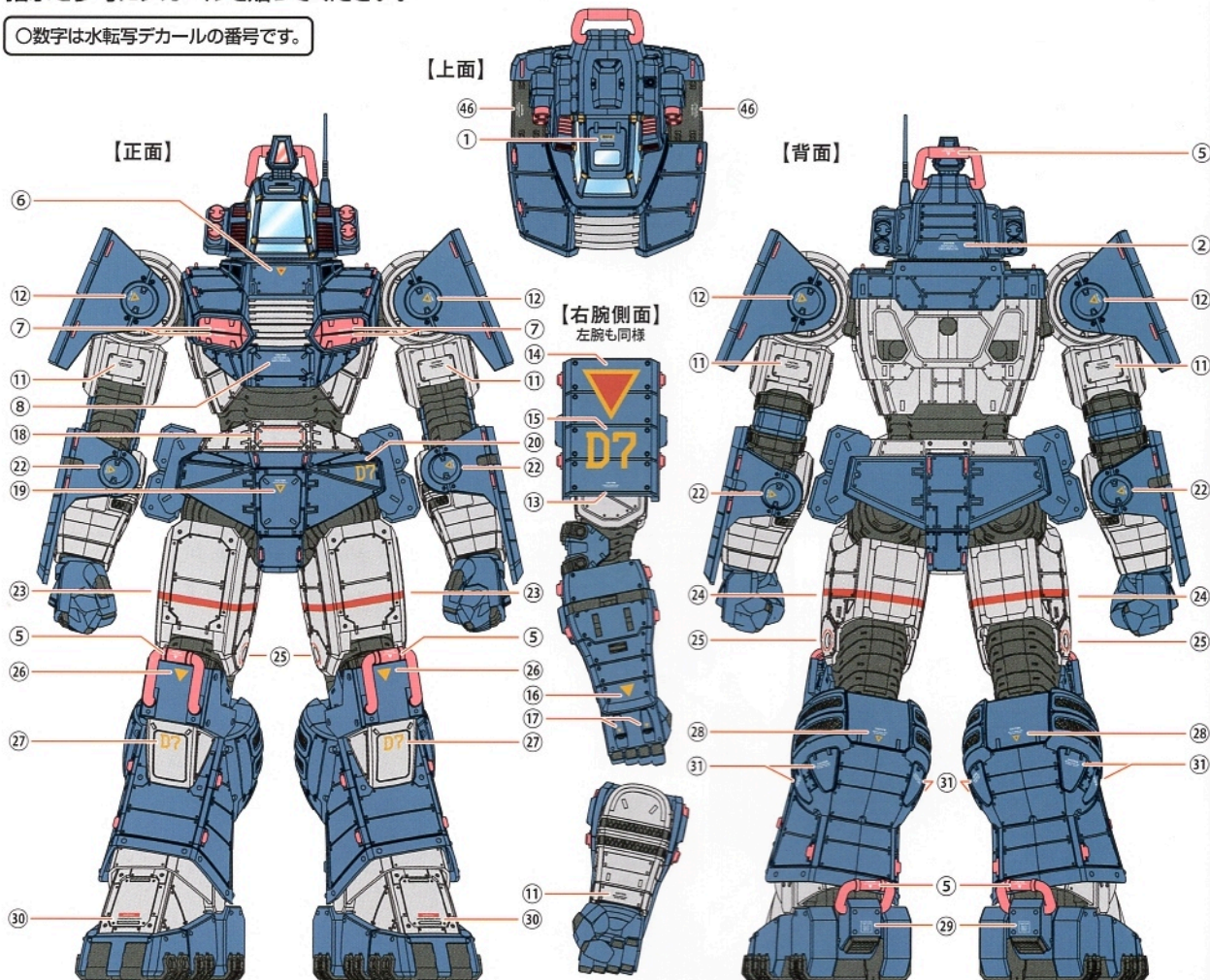
数字の順番に組立てる



数字の個数を組立てる


指示を参考にデカールを貼ってください。


○数字は水転写デカールの番号です。





# GET TRUTH DOUGRAM VER.GT


## ダグラム Ver.GT


 本体カラー1 (機体色)  
ガイアカラー CB-01 アイアンブルー

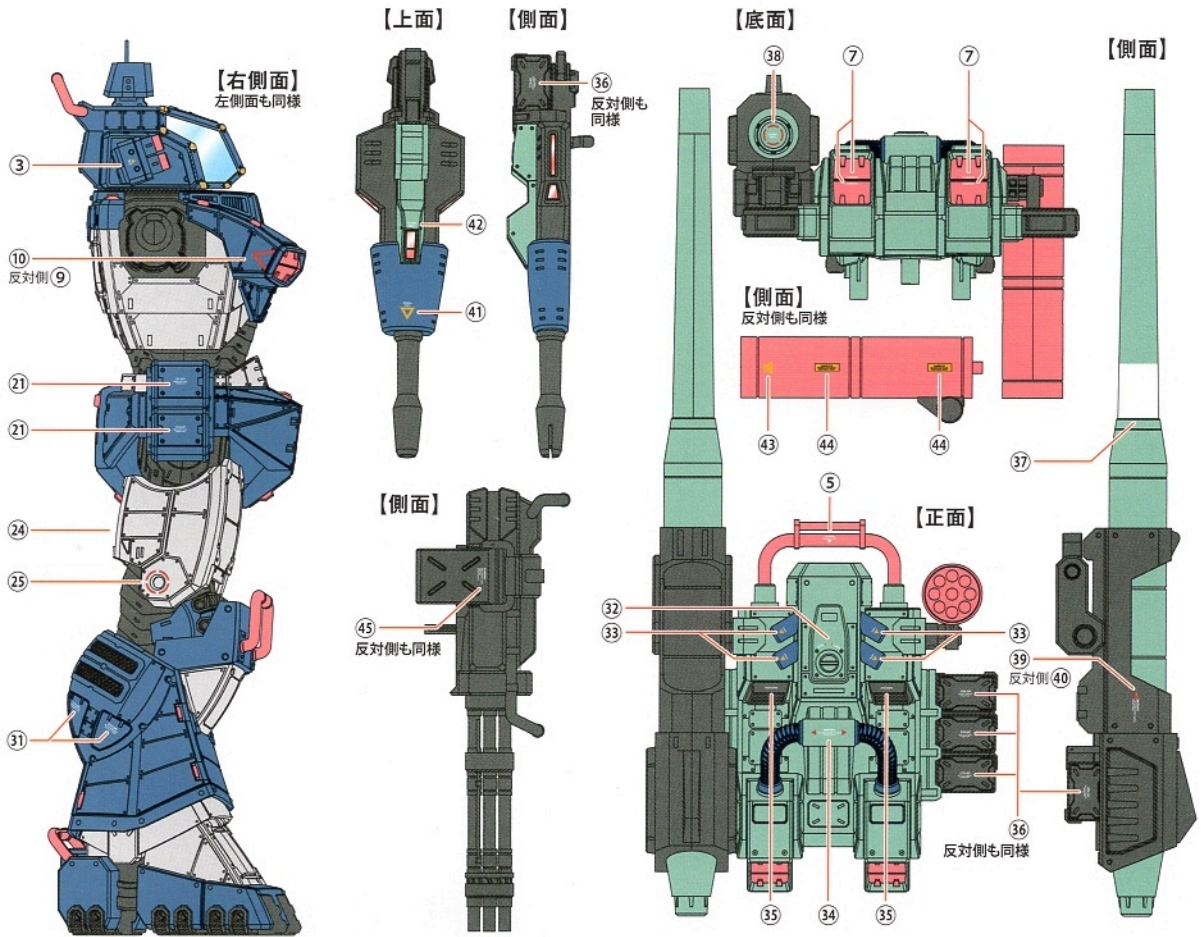
 本体カラー2 (前腕部、大腿部等)  
ガイアカラー CB-03 ライトグレー

 本体カラー3  
(腰横部、リアガン、ターボザック等)  
ガイアカラー CB-04 グレーグリーン

 本体カラー4 (胸部ダクト等)  
ガイアカラー CB-02 レッド

 本体カラー5 (リアガン・リアカノン)  
ガイアカラー CB-07 ライトグレーグリーン

 クリアーレッド (頭頂部センサー)  
ガイアカラー 041 クリアーレッド



## クリン・カシム(着座状態)



- 肌色**  
ホワイト(70%) + クリアイエロー(20%)  
+ クリアレッド(10%) + ブラック(少々)
- 髪色**  
ブラック + ホワイト(少々)
- 戦闘服カラー**  
ブラウン(10%) レッド(10%)  
+ ホワイト(5%) + ブラック(5%)

## 太陽の牙 塗装参考図

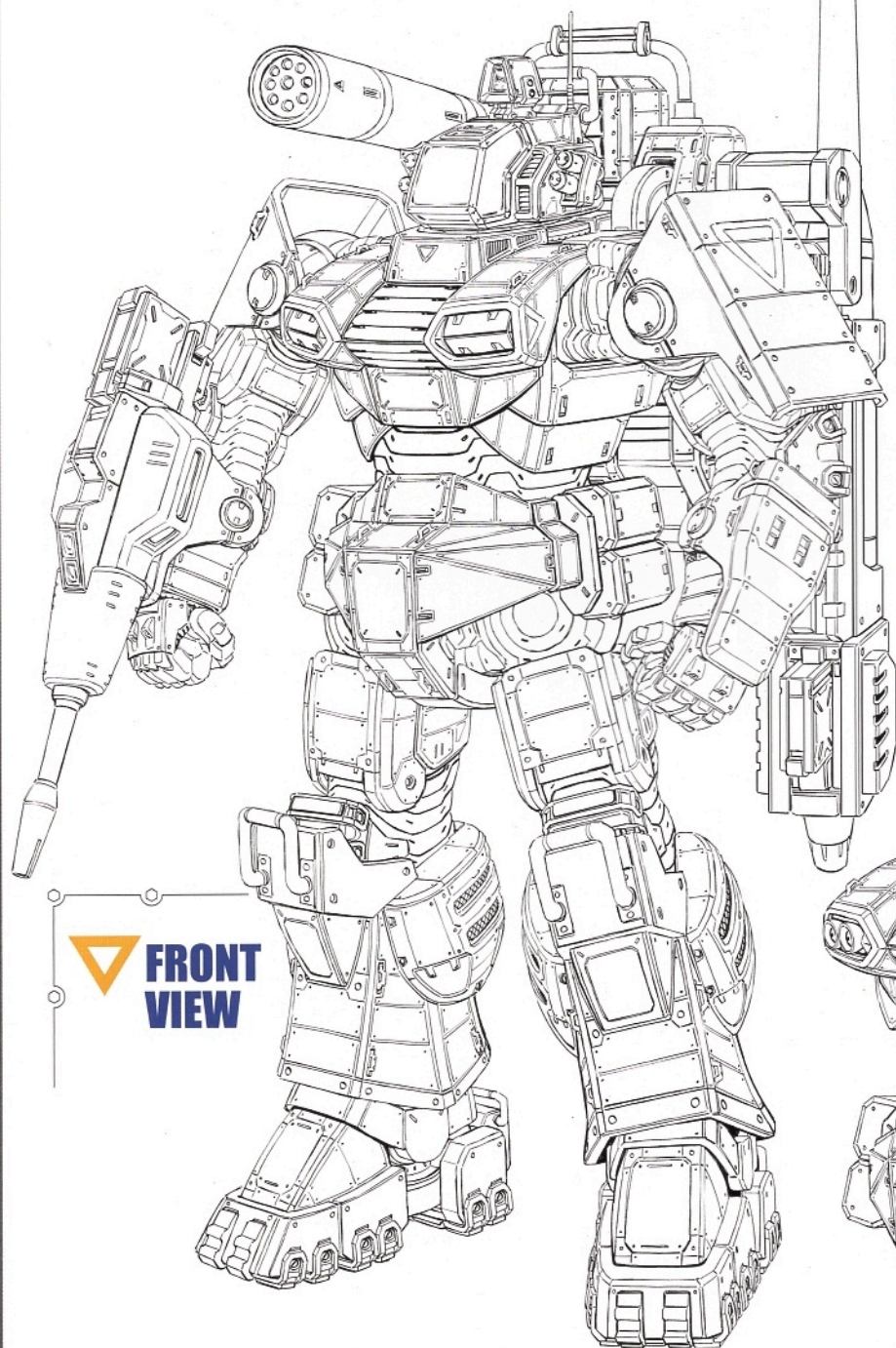
フィギュアを塗装する場合は、こちらの配色図やコミックスを参考に塗装してください。



## COMBAT ARMOR DOUGRAM

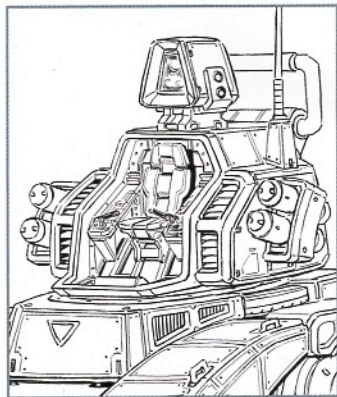
# Mechanic Detail

1/35スケールのダグラムというビッグスケールキットの  
開発参考用に太田垣康男氏が描いた画稿を掲載、  
キットでは再現されていないディテールや  
機能などもあるのでぜひ制作の参考にしてほしい。

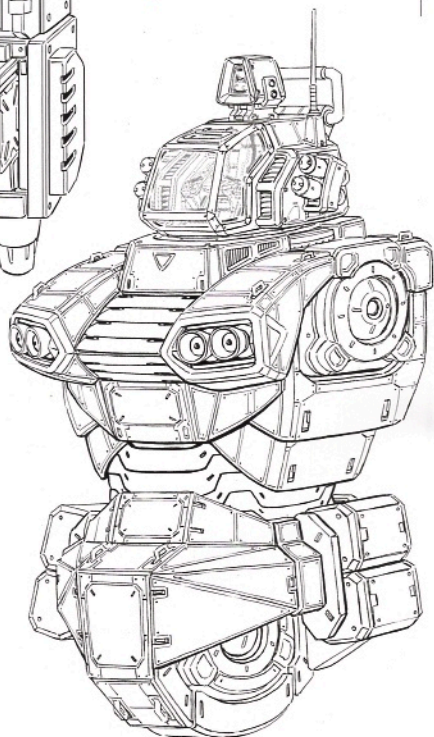


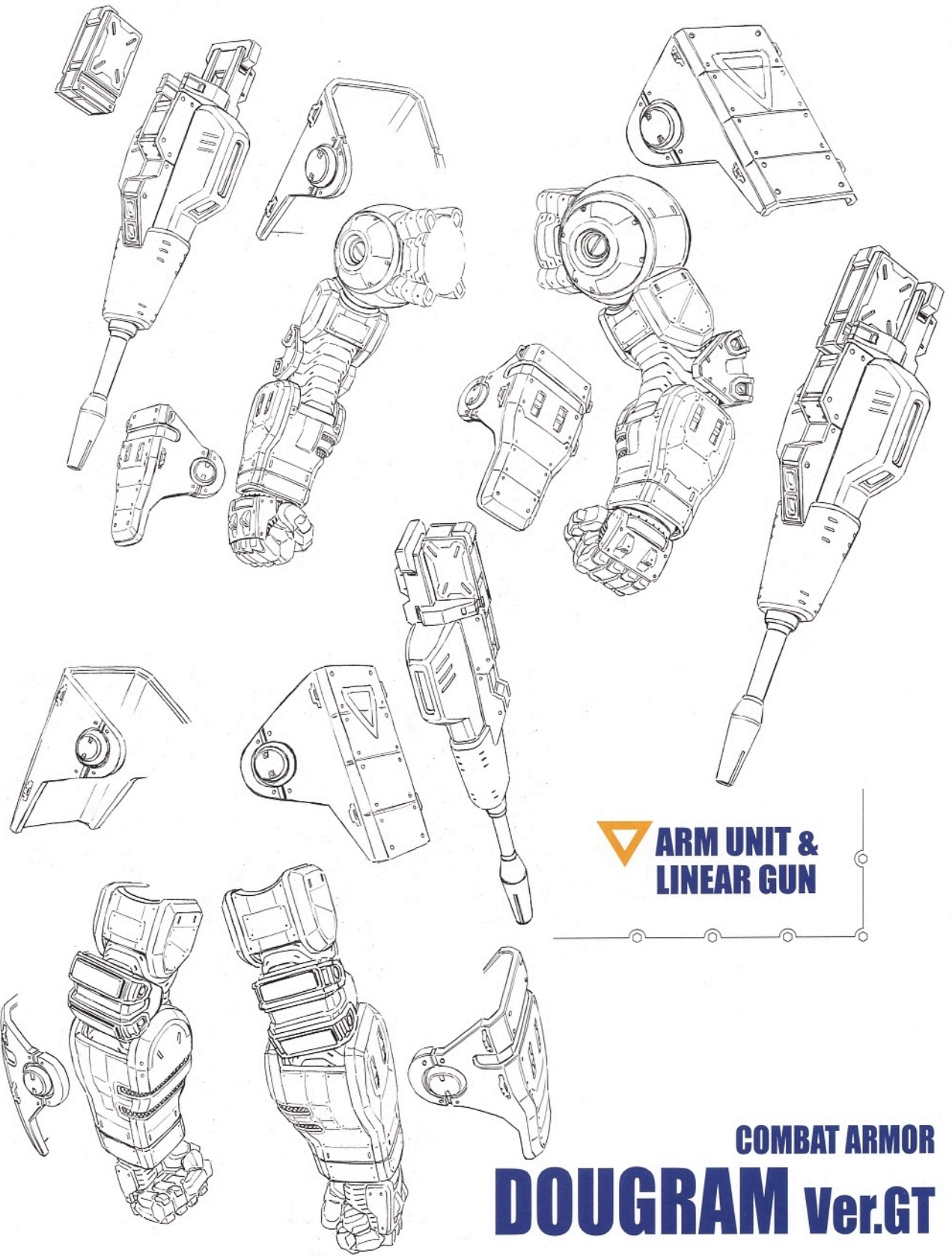
 **FRONT  
VIEW**

 **COCKPIT**



 **BODY UNIT**





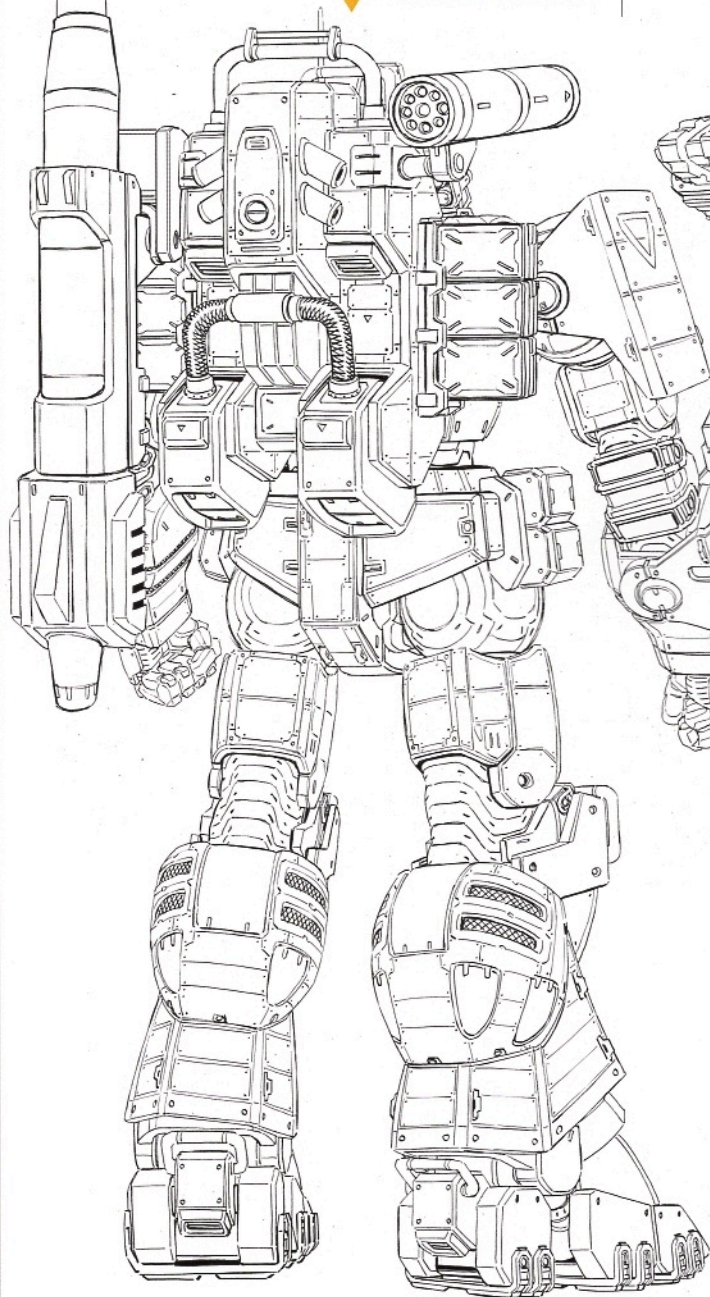
 **ARM UNIT &  
LINEAR GUN**

**COMBAT ARMOR**  
**DOUGRAM Ver.GT**

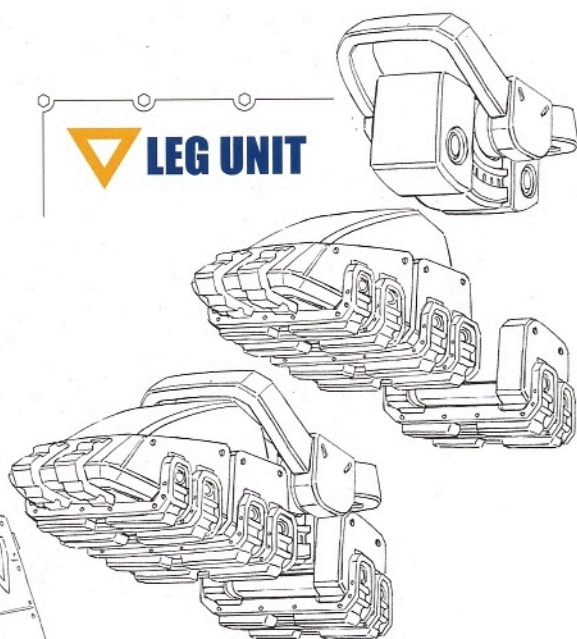
COMBAT ARMOR DOUGRAM

# Mechanic Detail

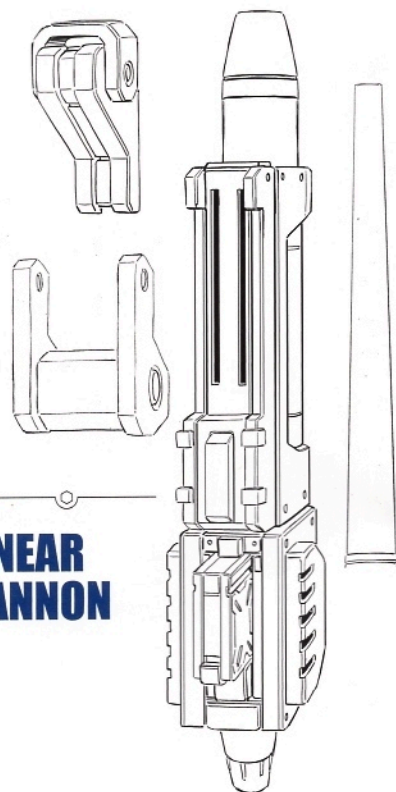
▽ REAR VIEW



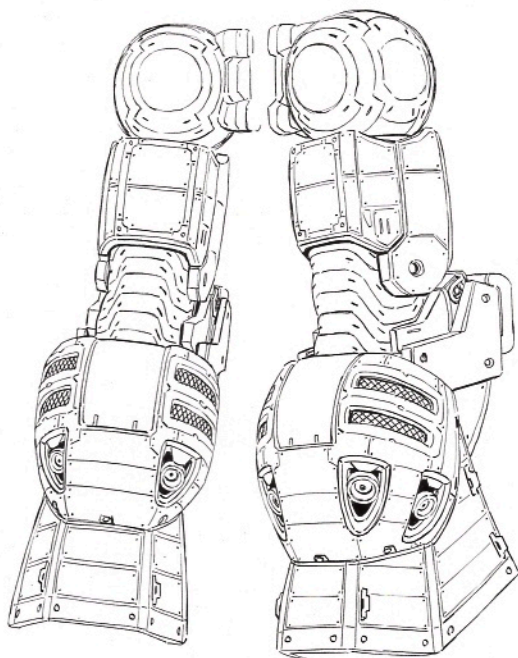
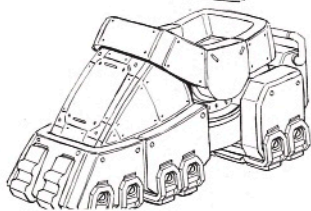
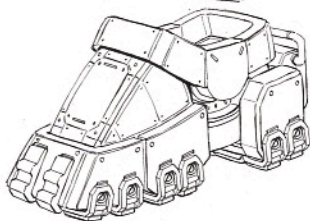
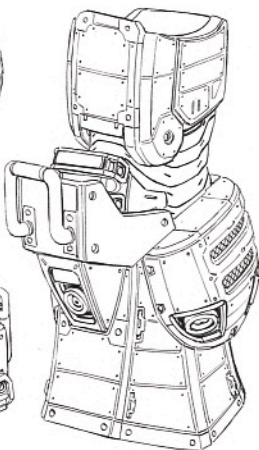
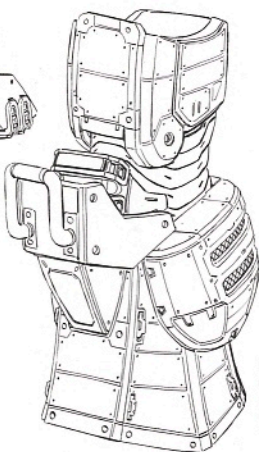
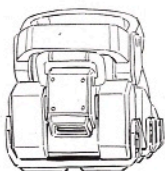
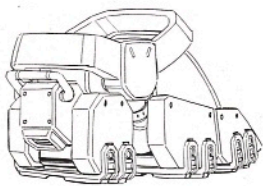
▽ LEG UNIT



▽ LINEAR  
CANNON

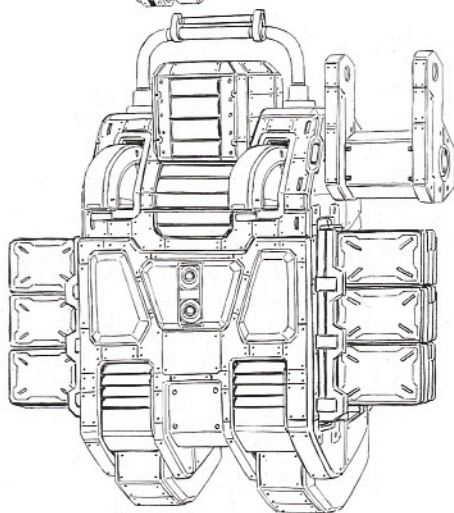
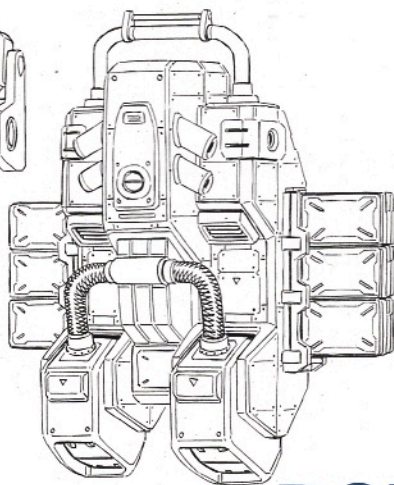
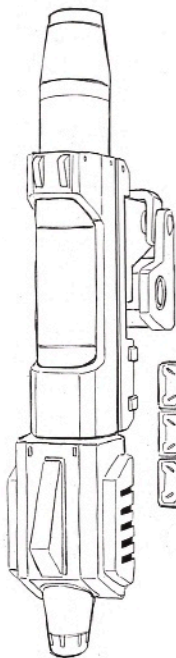
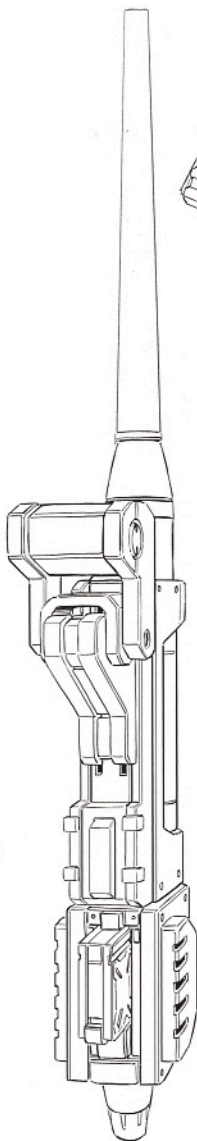
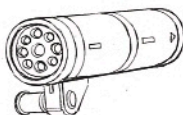
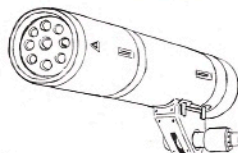






◀◀ 脚部ブースター展開状態

TURBO SACK



COMBAT ARMOR

DOUGRAM Ver.GT

## 異形の巨大キット1/35 GT版ダグラムは いかにして生まれたのか

現在小学館「デジコレ」サイトにて連載中の、太田垣康男氏による「Get truth 太陽の牙ダグラム」。この作品に登場する「GT版ダグラム」が、マックスファクトリーから1/35スケールの大型キットとして発売される。通常版ではなく、なぜGT版が選ばれたのか、そして1/35というロボットのプラモとしては異例のスケールが選ばれた理由とは。太田垣氏とマックスファクトリー代表のMAX渡辺氏に加え、開発に携わったたかく上等兵、竹下帰還兵を交えて、開発経緯とこのキットに込められた意図について、語ってもらった。



▲写真左からたかく氏、MAX氏、太田垣氏、竹下氏。

### Profile

MAX渡辺…自身もモデラーとして活動する、マックスファクトリー代表。「Get truth 太陽の牙ダグラム」の制作に協力する重要人物のひとつでもある。太田垣氏とは旧知の間柄。

### Profile

太田垣康男…漫画家。コミック「Get Truth 太陽の牙ダグラム」を連載中。1/35ダグラムでは、サイズの大型化を見越したダグラムの再デザインとディテール追加を行った。

### Profile

たかく上等兵…マックスファクトリーのマネージャーとして、PLAMAXチームの企画・開発に携わる。1/35ダグラムに関しては、設計の監修や製品内容の確定など幅広い業務を担当。

### Profile

竹下帰還兵…マックスファクトリー所属。PLAMAXシリーズの企画・開発を手がける。1/35ダグラムに関しては原型製作・設計の監督や製造のマネジメントなどを行った。

## 太田垣康男×MAX渡辺が語る、 最新にして最大のダグラム完成までの顛末

### ▼ ホビ-ショーでのトークショーで浮上した、「1/35のダグラム」というアイデア

—本日は1/35のGet truth版(以下GT版)ダグラムについて、MAXさんと太田垣さんを中心にお話を伺いたいと思います。まず、そもそもの開発の経緯についてお聞きしたいんですが……。

**MAX** それがですね、僕が全く記憶に自信がないんですよ。よく覚えてないんだよなあ……。

**太田垣** どれだけいい加減に生きてるんですか(笑)。こっちは毎回振り回されてるんですよ!

**たかく** 正確には、2019年の秋のホビ-ショーで行われたトークショーで、社長がお客さんに質問したのがそもそもの始まりですね。あのホビ-ショーでは、COMBAT ARMORS MAX 5周年を記念して、その当時のアイテムを全部並べた特設コーナーを作ったんですよ。—そこでトークショーもやったの。

**たかく** そうですね。トークショーもやったし、なにかしら目立つものも必要だろうということで1/20のダグラムを展示したりしたんです。

**竹下** そのトークショーで社長が「皆さんに聞いかけます。1/48と1/35と1/20、どのスケールのダグラムがほしいですか」ってお客さんに聞いて、その場でいちばんビビッドな反応が返ってきたのが、1/35だったんです。

**MAX** 覚えてない……(笑)。ただ、僕の中では元々1/35のダグラムをやりたいという気持ちがあったんです。それで改めてユーザーに聞いてみたんでしょうね。「わかってんのか、1/35ってけっこうヤバイ大きさだぞ」という気持ちもあったんで。

**竹下** あと、2022年がマックスファクトリー35周年だったんで、そこに合わせようという事情もありましたね。

**MAX** その昔、スコープドッグを1/35でフィギュアにした「35MAX」というシリーズがあったんですよ。相当気合を入れてやったんだけど、最後のラビドリードッグを出す前に頓挫し

ちゃった。いろいろ理由はありますが、うちとしてはうまくいかなかったプロジェクトのひとつです。だから35周年が近づく中で、「ちょうどいい、35MAXの復活だ!」という考えも、当時の僕の中にはありました。

### ▼ GT版ダグラムの立体化は、特装版に付属する前提で始まった

**太田垣** ただ、この時点では僕は1/35のキットに全く関わってないんですよ。

**MAX** 当初、1/35では相当違うものをやりたいと思ってたんです。アニメ設定に準拠したダグラムに関しては、1/72のシリーズでマックスファクトリーなりの答えは出ていたし、やり切った感もありました。だから、他のスケールでダグラムを改めて出すならば、全然違うことをやりたかった。

**たかく** そこに並行して「GT版ダグラムのコミックス1巻に、ダグラムのプラモデルをつけたい」という話が持ち上がるんですね。ここで全然違う1/72ダグラムを作るチャンスが生まれたんです。

**太田垣** 1巻でいきなり特装版というのは、ちょっと普通じゃないんですよ。大抵は1~2巻で人気が出てきて、じゃあ3巻あたりでおまけでもつけましようかっていうものなんです。売れるかどうかわからない1巻で特装版を出すというのは、小学館としても大博打だったと思います。

**たかく** とにかく最初から出し惜しみなしでやろうという計画でした。「ダグラム」というタイトルを改めて漫画にするにあたって、全ページフルカラーでプラモデルがついて、ようやくお客さんにとってバリューが感じられるものになるんじゃないか……という予想もあったんで。

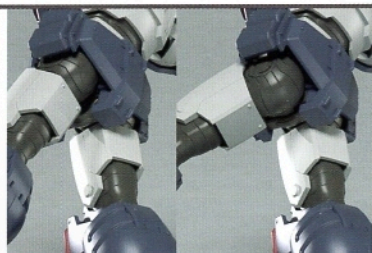
**MAX** ただ、新しく金型を起こしたら、コミックにつけるだけではペイできない。だから全装備バージョンを別で出すことを前提に開発を進めたんです。で、コミックにつけるものはどうしましようということになって、太田垣さんから「ス

トリーにも関わるし、コミックスには腕がクローアームのバージョンをつけたらどうですか」とアイデアをいただいたんです。1巻で活躍したバージョンが単行本について、フル装備バージョンは後から出すという一連の流れが完全につながって、「天才か!?!」と思いました。

**太田垣** ちょっと話を修正すると、MAXさんから「単行本にフル装備のダグラムをつけるのは無理で、いけるとしたら武器なしの本体のみ。だけどそれだと面白くないから、面白くなるようになんか考えて!」って無茶振りされたんですよ!そこで「コミックのおまけとしてなんとか成り立つものを……」と考えた時に、MAXさんのほうから「部分的に違うだけでも見栄えがよくなるから!」って言われて、じゃあ腕だけ変えよう。それがストーリーとリンクしていれば、ちゃんと商品価値が生まれると思ったんです。

—単行本2巻のMAXさんと太田垣さんの対談では、MAXさんによって半ば持ち込み企画的に始まった作品だと書いてありましたが、





Get truth  
太陽の牙ダグラム 1  
プラモデル付き特装版  
(ビッグコミックススペシャル・小学館)  
価格2,970円(税込)

◀▲2021年12月に発売された「Get truth 太陽の牙ダグラム」第1巻に付属したカッターアーム装備版ダグラム(写真左)と、現在発売中の「COMBAT ARMORS MAX27 1/72 ダグラム Ver.GT」(写真右)。どちらもダグラム自体の基本設計は同じで、右腕や武装類の有無が相違点だ。コミックに付属させるがゆえに必要な簡易な組み立てプロセスに加え、付け根が上下に動く関節などでコミックでの派手なアクションも再現できる。「現在のダグラムのキット」として説得力のある製品だ。

## 漫画は読者が買ってくれないと続かないものだし 当初から1/35のキットも含めた 遠大な計画があったわけではないんです

「劇中で右手がカッターアームになる」というのはプラモデルを1巻につける前提で生まれてきたアイデアだったんですね。

**太田垣** そうですね。商品化が前提で始まった作品だという自覚はあったんで、デザインするときもそういう感覚でやっています。ただ、漫画は読者が買ってくれないと続かないものだし、当初から1/35のキットも含めた遠大な計画があったわけではないんです。事実、最初は版元の小学館も「売れるんですか?」って半信半疑だったし、自分としても蓋を開けてみないとわからないなと思っていました。

——それが、3巻まで続きが出るほどのヒットになったわけですね。

### ▼「1/35か、それとも1/48か」に揺れるマックスファクトリー

——この特装版付属の1/72 GT版ダグラム、GT版ビッグフット、そしてフル装備状態のGT版ダグラムと並行しつつ、従来からあった「1/35のダグラム」というアイデアをGT版で発売するという流れになっていくわけですね。

**たかく** 企画サイドの考えとしては、1/72のGT版ダグラムは徹底的にパーツ数を減らす試みであって、もう少しロボットプラモとしてディテールや可動を詰めたものは何かしらやれるんじゃないかという感触がありました。それが1/35なのか、はたまた1/48なのか1/20なのかは要検討だったんですが、そこでいつものMAX渡辺流というか、いきなり「GT版の1/72

キットの3Dデータを、1/48と1/35で出力しろ」という指示が出まして。具体的に1/35のGT版ダグラムのプロジェクトが動き出したのは、このタイミングです。

**太田垣** その出力品がうちに送られてきたんですよ! 「これ、なんですか?」ってMAXさんに連絡したら、「そのまま大きくしたら物足りないでしょ!」「サイズに見合う密度感が欲しいよね!」って言われて(笑)。一応バンダイナムコフィルムワークスさんとかに仁義は通した上ではあったんですが。

**MAX** いきなりそんなこと言ったっけ!? 「作画の参考になるといいな……」って送ったつもりだったんだけど(笑)。

**太田垣** 多分その時にはMAXさんの中には「1/35のキットを出そう」という考えが頭の中にあっただろうけど、こっちは「うまくいかかわかんないよ!」って感じではありました。ただ、特装版の売れ行きもよかったですし、社長案件ということなら出ると言ったら出るんだろうと。

**たかく** 太田垣さんの方からしたら1/35にすんなり決まったように見えたと思うんですが、実際には1/48と1/35の出力品が出た時点で、社長から「どっちがいいと思う? 1/35だよなあ!」って言われて(笑)。もう「いいえ」と言えない、二択にすんなってない質問だったんですが、とにかく社内では「1/35のほうがよくないか?」っていう問答がありました。

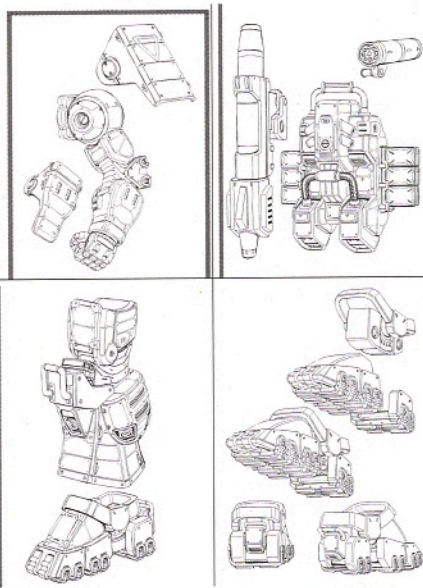
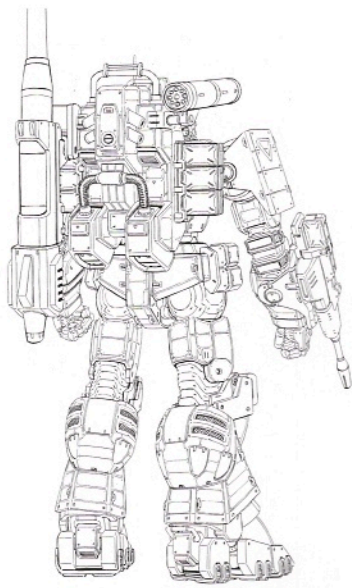
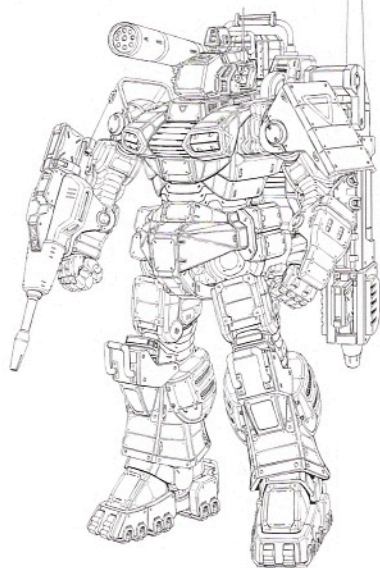
——もうMAXさんの中では1/35でいこうという結論が出て、あとは「背中を押してくれ!」という状態だったわけですね。



**たかく** 劇中のダグラムと人間のサイズを比較すると、意外に人間サイズが大きいんですよね。だから1/48でできることと1/35じゃないとできないことに違いがある。ただ、1/48で内部構造を全部作り込むとすごい値段になるので、だったらゴツツと大きいものを出して、「意外にお得だな」と思っていた方がいいんじゃないか……というのも、1/35を選んだ理由です。

**竹下** 単純に35周年だし、でっかい方がウチっぽいよね、っていうのもありましたね。

**たかく** 自分はホビーショーのトークショーでの反応を見てからも、「バルキリーも1/20でやってるし、ミニマムファクトリーも1/20なんだから、ダグラムも1/20でやりましょうよ!」って社長に言ってたんです。ただ、35周年ということもあって、このサイズに落ち着きました。



▲1/35スケールのGT版ダグラムを設計するため、太田垣氏によって新たに描き起こされた設定画の枚数は、1/72版とはプロポーショナルや頭身から変更されており、より無骨で現用兵器らしさの増した見たとになっている。各部には米軍およびイスラエル軍の走行車両から引用されたディテールが盛り込まれているほか、「リニアガンやリニアカノンへの給弾はどのように行われているのか」「高所から飛び降りても

▼ 現用車両のディテールがぴったりとマッチした、ダグラムという素材

**太田垣** そんな流れがあって、1/35サイズに見合ったデザインを僕が新しく起こすことになったんです。MAXさんとやり取りしつつ、漫画版とは全く異なるアプローチのデザインをしなくちゃいけなかったんで、この作業だけで二週間ほどかかった記憶がありますね。

**MAX** あのやり取り、楽しかったですよね!

**太田垣** ……。

**MAX** 楽しくなかったんですか?!

**太田垣** そりゃまあ、MAXさんは出てきたデザインに「すごい!」「カッコいい!」って言うだけでしたから、楽しいに決まっていますよ(笑)。

——漫画版と1/35のキットでのアプローチの違いというのは、具体的にどのあたりなんですか?

**太田垣** 漫画版のダグラムのデザインは、当たり前ですが漫画の中で動かすことを前提にしています。だから例えば関節の作りにしても、プラモデルだったら軸が一本あればいいところに、世界観に合わせて4本のシリンダーを生やして動かしているような設定を組み立てています。ただ、あまりにも細かいディテールを入れたところで、漫画の中のちっちゃいコマにそれを全部描き込むわけにもいかない。見開きみたいな大きなコマでも、そこまで描き込むことはあまりないんです。だから、「そういう複雑なメカがある」という設定を念頭においた上で、実際の漫画の中の絵ではある程度省略しているところがあります。

——漫画ではあくまで設定は設定として、適度に省略しているわけですね。

**太田垣** ところが、1/35のキットだとこの大きさの実物になるので、隅々までディテールを考えなくちゃいけない。見ようと思えば関節の裏

から股の間から足の裏から見えてしまうので、全部同じ密度のディテールが入っていないと不自然です。それを全部1から考えることになりました。

——大変ですね……。その作業で、参考にしたものなどはあるんでしょうか?

**太田垣** ダグラムって、戦車にしては隙間が多すぎるし、なにより見た目が鈍重そうになると軽快にアクションをするメカに見えなくなるんですよね。だから戦車のディテールを持つてくるのではなく、現用の軽戦闘車両や装甲車を参考にして、そこから引用したディテールを各部に足していきました。これも入れすぎると邪魔になるんで、入れては消し、入れては消しを繰り返しています。

——参考にした現用車両というのは、具体的にはどの車両なんですか?

**太田垣** 基本的に、米軍とイスラエル軍のものを参考にしていますね。

**MAX** そういう車両の画像を、太田垣さんが「こういうディテールはどうですか?」って送ってくれるんですよ。「今ってこんな車両あるんだ!」って感じで、そのやり取り自体が勉強になりました。

**太田垣** またダグラムっていう素材と、現用車両のディテールを盛り込むというアプローチがぴったりハマったんです。だから「これはもうできるところまで入れちゃえ!」となりました。ホビーショーでの展示をネット上で見たお客様の「ディテール入れすぎだよ」という意見も見ましたが、実際にこの大きさにまどまってみるとそんなに気にならない。

——確かに、ちょうどいい密度に見えますね。

**太田垣** 実物のこのサイズになったときにピッタリとハマるディテール感を考えたつもりです。MAXさんが1/72をそのまま1/35に拡大したものを送ってくれたおかげで、自分の中でサイズ感がつかめました。紙の上だけの作業

では無理でしたね。

**たく** このディテールアップ稿を描く時にベースにしたダグラムの絵があったと思うんですが、それは1/72用の画稿を拡大したものでしたっけですか?

**太田垣** 最初はそうしようとして1/72用の設定画を拡大したんですが、それだとサイズ感とシルエットが全然合わなかったんです。それは途中で捨てて、結局今回は1から1/35用のラフを描いています。

▼ モデラー目線からの組み味とディテール再現のバランス取り

**MAX** なので、同じGT版ダグラムでも1/72と1/35では全然プロポーショナルが違うんですよ。

**太田垣** それこそ、最初に送ってもらった1/72を拡大した出力品と比べると、一目瞭然というくらいの差があります。

——そこまで差があるものを設計するとなると、1/72のデータがほぼ役に立たなかったのではないかと思います。設計段階で大変だったことなどはあったんでしょうか?

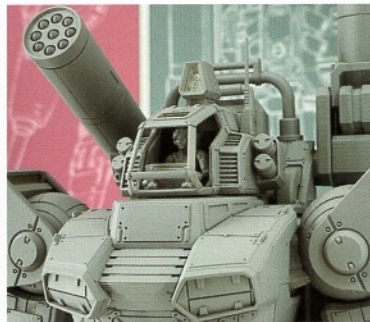
**竹下** 1/35用のイラストをいただいて見ていると、機体の全面にディテールがびっしり入っているわけですよ。プラモデルは金型を使って量産する工業製品なので、当然ながらパーツ前面にはディテールが細かく入れられるけど、側面には入れられない。そういう条件下でいかに組み立てやすい分割にしつつ、どれだけディテールを活かすか、バランスをどう取るかが大変でした。

——極端な話、外装が粉々に分解されたキットならば全てのディテールを入れられますが、それだと組み立てが面倒になりますもんね……。

**竹下** そうです。だから部分によっては申し訳ないけどオミットしようとか、逆にここはスライ



◀2023年2月に開催されたワンダーフェスティバル2023[冬]において公開された、1/35 GT版ダグラムの原型(写真右)。3Dプリンターによる出力品をグレーに塗装したものとされており、1/35版の特徴である濃密なディテールが細かく読み取れるものとなっている。また、この時点で「太陽の牙」メンバーの1/35スケールフィギュアも公開された。さらに2023年5月に開催された静岡ホビショウでは、原型にMAX濃度が彩色を施した完成見本(写真左)も展示。そのボリューム感は会場でも一躍目を引いた。



ド金型を使ってでもディテールを入れようとか、ユーザーにとって組み立てが苦にならないようにバランスを取るのが我々の仕事ですね。

**MAX** 我々はよく「組み味」っていうんですけど、プラモデルの組み立て工程でも気持ちよく組み立てられるものと、煩雑で時間ばかりかかるものがあるんです。単に何もかも再現すればいいというものではなくて、気持ちよく組み立てられて気持ちよくゴールできて、いいものを買ったなって思えるような“塩梅”を大切にしたい。だから、「ここは泣こう」という部分を取捨選択することが大事になるんです。ここに関してはウチの開発スタッフが全員ガチガチの模型好きということもあって、うまいことやってくれたと思います。

**竹下** あと、もうひとつポイントになったのが、ターボザックです。ダグラムって背負いものがあるけど、重たいデザインで、サイズが大きくなればなるほど重量もかさむ。この1/35スケールでは最初、思い切って脚の可動を全部無くそうと思ってたんです。

——それはなかなか思い切ったアイデアですね……。

**竹下** さすがにロボットのプラモデルでそれはないだろうということで、脚部は可動するようにしています。ただ、1/72だと膝は二重関節ですけど、1/35は関節の数をひとつに減らしたりとか、重量を考えると動かす部位は最低限になっています。あと、可動軸も8ミリと6ミリというかなりゴツいものを使ってます。最低限のポイントで動かし、重量をしっかり支えようという設計ですね。

**太田垣** マックスファクトリーのすごいところって、設計を担当しているのがモデラーばかりなのに、クセの強い商品を出す会社になっていないところだと思うんです。マニア向けのラーメン屋さんみたいになってない感じというか……。ゴリゴリのモデラーが開発しているのに、初め



## ダグラムという素材と 現用車両のディテールを盛り込むというアプローチが ぴったりハマったんです

て模型を触る人のことや久しぶりに触ることを忘れていない。自分が子供の頃につけていたプラモデルのボリューム感があるんです。

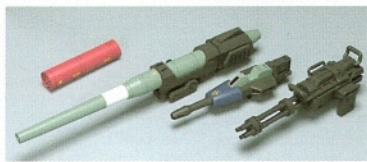
**竹下** ありがとうございます。実際、プラモデルの面白さで一番大きい部分って組み立ての工程で、ここが面白くないと商品として成り立たない。だからパーツ分割や嵌合には思いを込めていますし、それが伝わっていると嬉しいですね。

### ▶ 太田垣版「太陽の牙」の完全再現を目指した、フィギュアの制作

——今回の1/35ダグラムでけっこう大きいのが、同じスケールの「太陽の牙」メンバーのフィギュアも製作されたことだと思います。こちらはDXコンプリート版に付属するんですよね。たかく フィギュアに関しては、商品構成の段階でかなり考えたんです。今回も1/72と同様



◀ついに2024年5月に発売となる、「1/35 ダグラム Ver. GT」。こちらは「DXコンプリート版」で、ダグラム本体に加えてターボザック、リニアガン、リニアカノン、ミサイルポッド、ガトリングガンが付属。さらに、同スケールの「太陽の牙」メンバーのフィギュアが8体付属する豪華な内容となっている。1/72版と見比べるとよりどっしりとしたプロポーションとなっており、大型キットらしい重量感と重機・兵器寄りの雰囲気を感じられる。まさに「21世紀のダグラム」の決定版的なプラモデルとなっている。



に、ノーマルバージョンとデラックスバージョンの2種類のキットを出しましょう、という意見が社長から割と強くあったんで、自分と社長と原型制作のせとで商品構成について詰めました。その中で、1/35だったらやっぱりフィギュアがつかないとダメじゃないかという話になりまして。

**MAX** フィギュアは当然つかないとダメですよ！ウチはフィギュアメーカーですから！（笑）  
**たかく** と、まあ社長はフィギュアがないと

死んじゃう人なんで（笑）。でも、フィギュアってまともにつくるとそれなりにお金もかかる。ハイコストなのでノーマル版につけるのは難しい。デラックス版だけにつけさせてくださいと社長に話したんですが、フィギュアの有無だけでデラックスとノーマルの差をつけるのかという問題も持ち上がりまして、いろいろ話した結果「武装類が全部付属して、さらにフィギュアが8体つくデラックス版」「ターボザックなしでフィギュアもつかないけど、カッターアーム

がついているノーマル版」という形に落ち着きました。

——フィギュア以外は、1/72のGT版ダグラムの特装版付属キットと店頭販売版キットみたいな構成になったわけですね。今回の「太陽の牙」メンバーはかなり太田垣さんのコミック版での見た目に近いですが、実際のフィギュアの制作はどのように進んだんでしょうか。

**竹下** ウチは元々、1/72で「太陽の牙セット」っていうフィギュアセットを出していたんです。「太陽の牙」メンバー10人と、ホバークラフトのグランド・サーチのセットだったんですが、今回フィギュアの原型を担当した平田英明に「まずこれを太田垣版の顔とプロポーションにしてくれ」と頼みました。太田垣さんのコミックのキャラクターは、アニメ版と比べて頭身も違いますし、顔立ちも異なりますから。服装も違うのでそこも直して、ポーズもいくつかは変えます。この原型を一旦バンダイナムコフィルムワークスさんと太田垣さんにチェックしてもらって、OKが出たので金型に進んだという流れです。

——太田垣さんがデザインしたメカが立体化されたことはたくさんあると思うんですが、自分の描くキャラクターがフィギュアになることはちょっと珍しいのではないかと思います。そのあたり、感慨などはありましたか？

**太田垣** 実のところ、元々は高橋監督が造形したアニメのキャラクターたちなので、自分のものという感じは全然ないんですよ。だから自分のキャラクターが立体になったというよりは、アップデートされた「太陽の牙」のフィギュアができて、ファンの一人として嬉しかった……という感じですね。今回は箱絵も担当させてもらったので、彩色済みのフィギュアを送ってもらって、それを参考に絵を描いています。

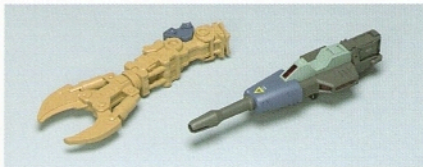
**竹下** そういう意味では、ビッグフットについ



これだけのものを作れたということで「ウチもプラモデルメーカーとしてここまで来たんだ！」という感慨があります



◀▼こちらは通常盤の「1/35 ダグラム Ver. GT」。こちらは右腕に取り付けられるリアガンと、油圧式カッターアームが同梱されており、特装版コミックに付属した1/72キットを思わせる内容となっている。もちろんダグラム自体の設計はDX版と共通のため、濃密なディテールやボリューム感が味わえる。



## 自分の描いたものがこの形になったということは それだけお客さんに支持してもらえたというこの証明だと思います

ているトラビストとアウラのフィギュアは、純粋に太田垣キャラの立体化と言ってもいいかもしれないですね(笑)。

**太田垣** そうですね。爪痕残したなって感じです。

### ▶ 太田垣×マックスファクトリーだから 成し遂げられた、「初恋の人」の大型キット化

—そんなこんなで、現在ほぼ完成品に近いテストショットができあがっているんですが、これをご覧になっていかがでしょうか？

**MAX** もう、酒が入ってたらこの場で泣いちゃうレベルで、マジで嬉しいですよ。今年はPLAMAX10周年というのもあって、感慨の深さも倍。大きいプラモデルってことで言えば1/20のバルキリーを出したこともありましたが、あれは特別なテストパターンで、一種のお祭りでもありました。地に足のついたキットで、なおかつこれだけのものを作れたということで、「うちもプラモデルメーカーとしてここまで来たんだ!」という感慨があります。

**太田垣** 私は胸を撫で下ろしてますね。連載を始めるときに、本当に責任重大だと思ったんです。もちろん、MAXさんは横で「でっかいプラモ出そうよ!」とか、いろいろ吹かすわけですよ(笑)。でも、漫画が売れないことにはそこまで辿り着けない。だから1巻の時点では本当にハラハラしてましたし、自分の描いたものがこの形になったということは、それだけお客さんに支持してもらえたというこの証明だと思います。支持されてなかったらこんな大きなキットにならないと思うんで、そこは本当に嬉しんですよね。

**MAX** 元々の『太陽の牙 ダグラム』という作品は、第二次世界大戦からベトナム戦争あたりまでの兵器や戦争のありようをベースにした作品じゃないですか。だからダグラムも本来はこういうテイストの立体物になるはずじゃなかったわけで、それが今ここにあることに大きな意味があると思うんです。80年代にデザ

インされたロボットと現用兵器のテイストってものすごく乖離があるから、そのギャップを埋めるための作業ってかなり慎重にやらなきゃいけない。そこに関しては、太田垣さんという人によってもらえて本当に幸運だったと思います。

**太田垣** 謙遜せずに言えば、自分の作家としての持ち味って「思い出補正」だと思っているんですよ。ダグラムにせよガンダムにせよ、当時見ていた人からすれば、思い出の中のコンテンツじゃないですか。それを今に向けて作るということはノスタルジーのど真ん中を刺激する行為だし、今自分はそれを仕事にしている。—それは間違いなくそうですね。

**太田垣** 「自分だったら『初恋の人』をこんなに美しく描けるぞ」というプライドもあるし、そこが多分お客さんにも支持されていると思うんです。キャラクターもメカも、自分より上手な人はたくさんいます。だけど、あの頃見えていた作品の美しさや、脳内でどんどん美化された記憶をそのまま形にする人は誰もいなかったから、自分が今やっていると自覚しています。これって「初恋の人」をそのまま連れてきててもダメで、思い出補正がかかったままの姿をそのまま作品にすることで「あ、これが自分の『初恋の人』だった!」と思ってもらえるんです。当時ガンダムやダグラムを見ていた人も40年前のままじゃなくて、色々知識や経験が溜まっている。その分を見越したちょうどいい落とし所があるはずで、それを見つけて出すのが自分のデザイン作業だと思っています。

—そんなテクニックがあればこそ、GT版ダグラムの1/35キットがこれだけの密度感で仕上がったわけですね。

### ▶ 入魂のフルハッチオープンも速攻組み立てでも、 1/35ならではの面白さを味わってほしい

—このキットをユーザーにこう遊んでほしい、こういう作品を見たい、というご意見はあ

りますか？

**太田垣** 前に『機動戦士ガンダム サンダーボルト』の3巻で、着せ替え用カバーのためにサイコザクのカットモデルを描いたんですよ。それと同じことが、このサイズの立体のダグラムならできるんじゃないかと。フルハッチオープンが見たいですよな。1/72ではできない、1/35ならではの表現だと思います。

**MAX** がらんだうのキットだから、中身を詰めるのはやりやすいかもしれないですね。

**太田垣** 大変だと思いますけど、それに挑戦する強者が現れたら楽しいだろうと思います。

**たかく** 例えばふくらはぎのパネルラインも、劇中でバカッと開いてバーニアになってた部分のラインとかがこのキットにはちゃんと入っているんです。全部開閉できるようにするとんでもないことになるし、何より重たい模型でお客さんから時間を奪うのは本意ではないので中身は入っていないんですが、ハッチオープン的なことをやろうと思ったらできるだけのヒントは、至る所に盛り込まれています。

—MAXさんはいかがでしょう？

**MAX** なにより僕がそうだっていうところもあるけど、僕はひとつひとつの模型にあまり時間をかけてほしくないんですよ。ワッと作って、「あ〜楽しかった! 次!」って感じで、プラモデルを遊んでほしい。

—まさしく近年のMAXさんの制作スタイルですね。

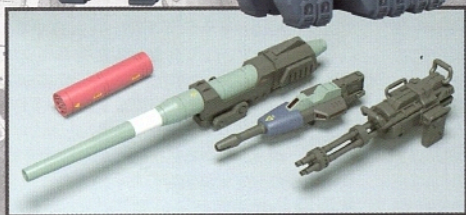
**MAX** だから、この1/35ダグラムも、とにかくガーッと組んで、成形色もすごくいい色を選レクトしてあるんで、それを活かしてバンバンデカールを貼って、ぐちゃぐちゃに汚してデロイアの大地を踏み締めてほしいですよな。モールドがいいんで、ウェザリングカラーをベシャベシャに塗っても「俺、すげえ模型上手いじゃん!」って気持ちになれる。ぜひやってみてほしいです。

# GET TOGETHER WITH DOUGRAM VER.GT



## COCKPIT ▲

キャノピーはクリアパーツを使用、窓枠は別パーツにて構成。操縦席に収まるクリン・カシムのフィギュア付属。



## ARMS ▲

武装はリニアカノン、リニアガン、ミサイルポッド、ガトリングガンが付属。



## FIGURES ▲

パイロットの他に、同スケールの太陽の牙メンバー、クリン・カシム/ロッキー・アンドル/キャナリー・ドネット/ピリー・ボール/チョコ・ビエンテ/ナナシ/ハックル・G・トンプソン/ジョルジュ・ジュールダン付属。

# Kit Detail

## COMBAT ARMOR MAX 29 DOUGRAM

